

日露戰役史料

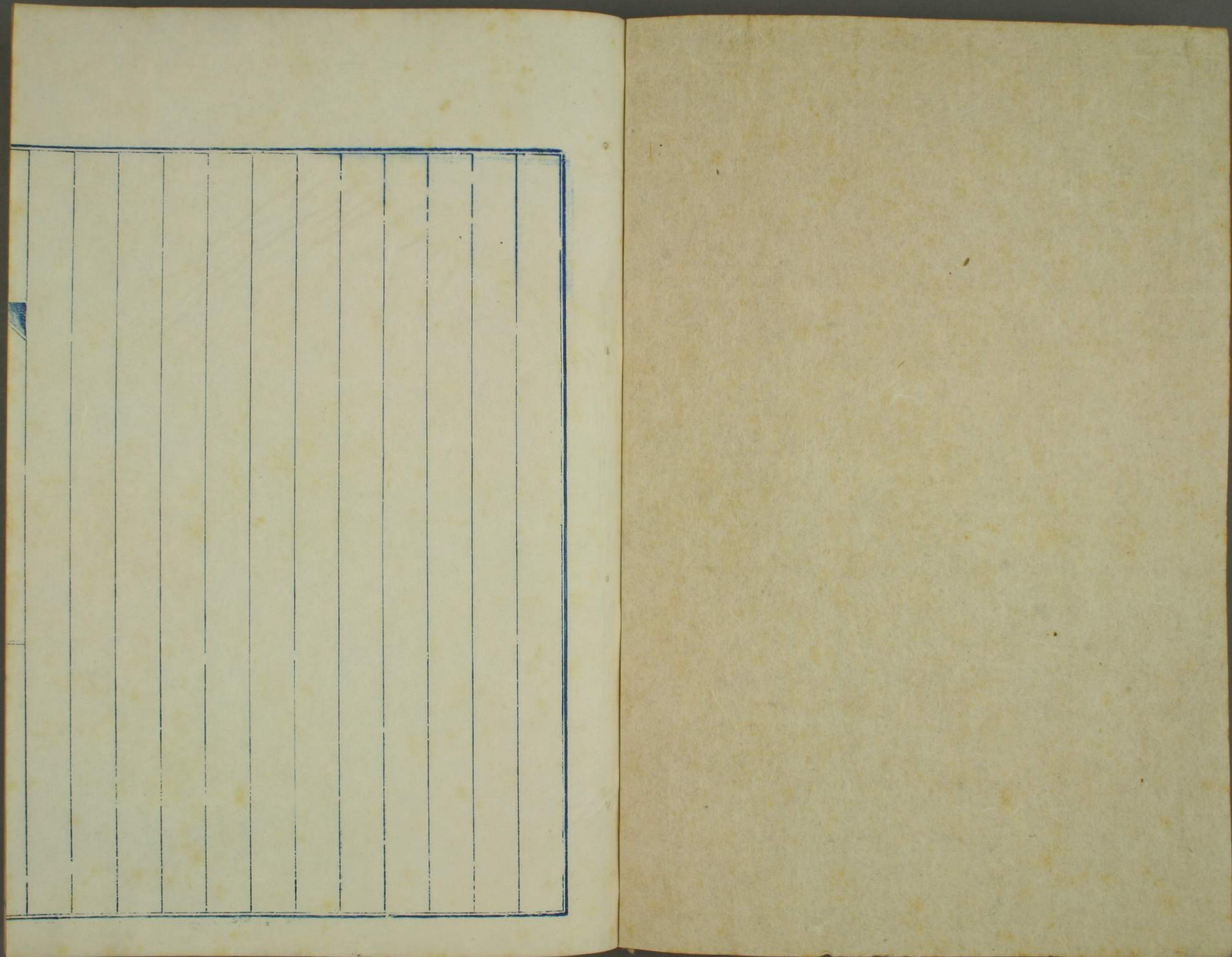
第十二卷

自明治三十七年  
五月至七月  
路透電報

早稻田大學

リ每5  
2107  
12







明治三十七年五月分

路透電報集

附倫敦特電

U 5  
2107  
12

美皇と愛蘭

英皇政府の回章

四月二十九日

英皇皇帝皇后有陛下に愛蘭に於て到る處引続  
し忠実なる歓迎を受けパンチエスタウン、レ  
オパーツタウンの競馬會に臨行ありたり雷す  
るに何等の支吾無く又不平の声あり

△ 英皇の在外駐劄の代表者、回章と慶送して調  
停を拒絶し且つ再び日本の奸諂を不意打ち  
非難したり

四月三十日

露國政府、在外駐劄の代表者、回章と發送し、  
露國の戦争を終結せしめんとする調停に同意  
せざるべく又戦後、於ける日露兩國の談判に  
對して其の孰れかの國たるに同じく外國の干  
渉を容認せざるべき旨を明白に宣告したり

△ 聖彼得堡より報道、イムバ十隻の日本軍艦  
及び六隻の水雷艦、昨二十九日浦塩斯德、現  
けんちりと

△ 英國新聞紙、一般に金剛丸にありし將士の割  
練、勇俠に對し日本を祝す

五月一日

華聖頭府より報に據るハ鴨綠江の大戦全然  
日本の勝利に歸したる旨國務省に其報ありた  
りと云ふ

セントルイ博覧会、大統領ルーゾヴェルト氏  
に依りて正式に開場せしむるハ大統領ハ華聖頭  
府にありて電報に觸れ之に依りて一切の機械

米國去年度概算

に後勤を共へ又纏り小なる旗章を解き放ち  
之と共に無教の會衆一時に国歌を奏す

米國去年度の歳入一億四千八十万磅ニシテ  
歳出一億五千六百三十万磅なり

ルイベリ氏マルセルエト看せし其伊國旅行ハ  
政治上交際上共に甚しき成效なり

五月二日

瑞典丁抹の二國ハ中立宣言書を發して交戦國

佛國大統領の擧團

瑞典丁抹の局外中立

軍艦の之を軍港又其一定海面に入るを禁せ  
り此等の海域に布設水雷に依りて保護さる

セントルイス博覽會

セントルイス博覽會の規模ハ頗る廣大なり其  
地域千二百四十エーカーに擴ぶる五十箇國の  
外國政府之に賛同し内十九箇國ハ其特別館を  
建設せり蓋し曾て世界に催れたるもの、前  
大なるものニシテ其規模ニカガハ博覽會ニシ  
て優なり文官海陸軍人外國官人等立合ひ上座に  
の用場式奉行す小なり

巴里新聞紙ハ鴨綠江陸戦に關し唯を露國の公

鴨綠江陸戦と  
仙國新聞

陸軍の勝利と  
英軍新聞

報をうみ掲載し居たり但し専門家の重なる投  
書家等皆露兵の其遼陽退却に於て甚だ  
苦難に接せざるを豫想しクハルトキン将軍亦  
遼陽を放棄せしことある心と存す

△ タイムズは論じて曰く日本軍は今日遼  
東半島に上陸せし其防禦陣地を占領せし  
至るまで露國の之に抵抗せし力をも有せざ  
るべしと  
ラレグラフ又曰く露國の其形勢を計算せし  
認めたりと  
スタンダード曰く之は勝利の士氣に及ばず影

敵の陸軍の報

響は其戦果の價值は超越せざるなりと

五月一日度露國公報に日本砲兵の著しく優勢  
なりしを云ふ其受けたる損害は甚だしかりし  
を承認しサツズリワケ将軍九連城の陣地を  
撤去して鳳凰城の第二陣地を退却せしむる  
らざるに至りしと云ふ

五月三日

△ 奉天よりの報に依れば露國陸軍總指揮官ク  
ハトキン将軍は兵二萬を率ゐる遼陽を退却して鳳

露國總指揮官  
鳳凰城に向ふ

凰城：向ヶ進軍せんときと

△ 夜國考謀本部：九連城の戦を以て全然重大と  
らぶる分營兵の戦闘と辱し具退却したるハク  
ロハトキン將軍の作戰計畫中の一節なりと言  
へり

日本軍の鴨緑江：於ける勝利ハ強んと計り可  
らざる精神上の結果を有する武力的大偉績ナ  
りとして美國臣：大陸：於ける等しく稱賛せら  
る尤も獨仏の新守成ハ鴨緑江：於ける日本軍の  
少数なりしこと並：日本軍を妨害せらる外何

等々の辱は可き意志を有せざることと論辯片

五月四日

△ ルス新聞通信員ハ旅順口より聖彼得堡：電報  
し日本海軍少尉候補生ハ此計畫ハ旅順口関  
塞？）：於ける海軍史中未だ嘗て其比類を見  
る黒帝の勇敵を示しなりと云へり

△ 今夜セシム オアフルト混さる日本協会晚餐  
會ハ特種の注意を著り駐美日本公使林子爵  
ハ會長となり末松甲ハ乾盃の喜頭と取り参會



者堂：満つ

旅順口閉塞計  
吉

△ 旅順口を閉塞せんとするの計畫昨朝又も試み  
 られたるが露人の宣言して曰く此計畫は不成功  
 なりき十隻の日本閉塞艦近接し来り内八隻は  
 露軍の砲撃の爲る港口外に於て撃沈せしむる  
 本水雷艦は残りの閉塞艦二隻を曳去りたるが  
 軍は防戦中グレシマスチー（千四百九十二噸）  
 オトワトシイ（千四百九十二噸）ギルマツク  
 （九百六十三噸）等の廢艦を使用し日本軍  
 は水雷艦を使用したるがみ本艦隊は附近に停  
 留せりと

敵の通信断絶

△ クロハトキン將軍ハスリワチ軍團長との電  
 係に依りて通信の断絶したるを報告し軍は通  
 逃兵の口供のみを報告す

敵軍伏兵の羅

△ 軍團長ハスリワチ將軍ハスリワチ軍團長との  
 風説を彼得僅に行はる

日本公債券  
集談

税関収入を第一擔保として六分利附五厘為替  
 の日本公債を發行する事は付き倫敦に於ける  
 若干の財産家との協議進行中にして殆んど調  
 談に近づきたりと

露艦郵船  
抑留中

露艦郵船クラブリ號グリーンダイセイを張る九  
時程の海上に於て汽船オリシリス號に對し空  
砲を放つて之を運轉を停止し抑留二時間の後  
郵便物を検査し露人の日本の郵便物の引渡し  
を要求したるをも斯の如き郵便物の船底に在  
りて之に手を觸るゝに至らば即ち郵便物を檢  
査したる後オリシリス號の進行を許さず

五月五日

倫敦日本協會晚餐會、林子爵を會長として催

倫敦日本協會  
晚餐會

さ小席上末松男爵、直言して曰く日本、其熱  
血を濺ぎ終るに至る迄に(服)降するもの  
にあらざるあり世間、日本を以て經濟上の  
理由に依り戦争を極行せんと欲はざるもの  
ありと居たものあり日本の国力、局限あるは  
固よりなりと露の外問の想像する如く、短  
たるとはらむと又林子爵、英國の現れたる同  
情に對し日本國皇帝及び臣民、熱心満足し  
居らざる由を述べたり

五月七日

日本兵旅順口を去ること四十哩金州半島の上陸せし之が爲り鉄道の交通停止す包圍の既に初まりたり

美國總理大臣ハルプオード氏、保立党大会に於て演説して改革を土耳其に実行せしむるの困難なるを繁言し政府の之を極端主義強行せしめざるも或は革命党の害とあるを欲せざん革命党の真正なる改革の行はれんようを欲せざる阻廢せんことを欲せざるの心をなすと宣言し美佛協約の價值を言及し政府の此協約は永遠すべきを信せんと云へり

公然承認せしむるにと雖も電波得僅に於て信せらるる所は旅順口の孤立とあり海港の封鎖せしめられしきしに總督並にボリス大公は窮地を孤立せしめらるる可きを逃避せんが爲り急遽後順と去り成る可き丈け最小数の軍隊を強固せしめたり同地は尚ほ一箇年間の糧食を有すと

ノール新聞の報道より處に依れば八百の西藏人に去る五日ギヤンフエに於て英國遠征隊を攻撃したるが却り撃退せしむ多大の損害を蒙

りたりとつふ

法王と仏國の衝突

羅馬法王の仏蘭西に向ふ天主教國の首長が伊  
太利王室を訪問したるに對する正式の強硬な  
抗議を考へたるが仏國の右の抗議に應ずる  
を絶對に拒絶するの回答を考へたり

五月八日

ハルカン改革の  
懸

美國外務大臣ラレスタウン卿はスベンスカー  
に答辯してハルカンに於ける改革の進捗は矢  
望的なり表し之を促進するにあらんは吾人

は最も重大にして且つ危殆なる形勢に對抗せ  
ざる可らざることある可しと表白したり

日本新公債の好  
況

日本の新公債は其發行に先ち賣出價格より二  
磅半の高直なり倫敦に其全部引受を欲したる  
も米國に其半部を得んことを主張して之を得  
たり

巴里の債團を債

債團公債に巴里に於て調談せり

秘露大統領の計

秘露國大統領ロマニヤ氏(去死)たり

露國ハ滿洲の軍隊を強大ならしめんが爲りマ  
ルコフ、モスコイ軍團及び其他諸隊の動員を  
命じたり

去る六月ブルカス一中隊、シークス一中隊、英國  
の印度兵ロカ溪路の下方に於て千五百の西藏  
人を攻撃し、戦闘六時間、互り英國方は二十五  
名の死傷者を出し、ベシエーン大尉死せし敵  
二百九名を失ひて遁逃したり

五月九日

△ 英國議院公書ハ亦此所ニイハルハ現在の英國軍  
艦ハ四百四十五隻ニシテ日本軍艦ハ二百四十  
八隻又露國軍艦ハ二百八十隻なり

露國公報ハ亦此所ニ據ルハ鴨緑江ニ於ける露  
軍の死傷數は將校七十名、兵卒二千三百二十  
四名なりと云へり

テレグラフ新聞ハ論じて曰ク鴨緑江の會戦ハ  
戦史ニ殆ど其比を見ざる巧妙を以て行はれた  
り其日本の成功ハ其原因全く海陸両軍の完全な  
る共同ニあり此点に於てハ英國と異し亦之ニ

退くこと能はれずと

批評家の同情

△ 日本軍の陸戦に於ては海戦に於ける如き勇  
敢たる行動を有し能はざれば一々の疑を抱き  
たる批評家は今回の日本軍の戦勝よりして盛  
んある同情を日本に表はるゝ多し、而して日  
本軍の戦果に熱心なる賞讃を博しつゝあり

露國公債の力

△ 露國公債の三分の割引を以て水曜日（今日）  
再發行さるべし

戦局と巴里の人心

△ 巴里に於ける樂天的觀察（日露戦争に對して）

は少く其度を減したる

五月十日

八月五日を以て發行さるべく豫期さるゝ日本  
公債の去る土曜日は（七日）に於て二分五厘割  
増の相場を有し昨日に至りては三分割増の氣  
配となり其與上の成効たることを請合ふ

獨逸議會に於て社会党の領袖ベルン氏に今  
回の戦争に對し政府が贊成の態度を取らざる  
に反對しペトロバウロスに沈没の際に於て皇

帝の宸帝に同情を表せる旨の電報を發したるは寸毫も國民の感情を代表せるものにあらずと云へり  
之に對し宰相ロエーロハ皇帝の電報に次して中立に背反を了ものにあらずを辯じ隣接友國の不幸が禍逸新聞紙に於て惡意ある記事の點に供せられ又漫畫の材料に供せられたるを悲しむ

△日本新公債ハ本日三磅の割増相場とあり  
其他の日本債券も亦著しく騰貴せり

△クロンスタフト造兵廠火を發し其近傍に存したる火藥庫も亦破壞を免れず  
之を屬す一切の外國職工罷免せられ(官文)に凡て武官を以て代へられり

△米國軍艦二隻並果に向け進航を余せられり  
△探検家スタンレー氏死去せり

五月十一日

△本日日本公債ハ一磅四分の一方騰貴し米國公

債ハ四合の三瓏方下流しなり

新日本債の債

新日本公債中ハ手續書更ニ度表せらる倫敦ニ  
五百萬瓏米團ニ五百萬瓏を割當つ

露國大將の執

△ 聖彼得堡よりハ未報ニ依ルハクロバトキン將  
軍ハアレキシエフ總督の精力ニ對して露帝ニ  
訴ふる所あり自己ニ全權を委ねられんことを  
奏請したりと云ふ

長驅何妨也

△ 一リリ、テレグラーフ論トて曰く世に日本軍  
ハ深く露國の内地ニ侵入して敵軍を窮追し之

カ爲ニ那翁の覆轍を誦むニ至ること勿レと警  
告するものあり一應聞えたる引例の如くなる  
ト是ハ事情の彼此相異なるを知らざる者の言  
のみ夫れ日本軍ハ黒鳩公を包圍し得べし黒鳩  
公ハ日本軍を包圍し得んと難し日本軍ハ奉天  
哈爾濱ニ進軍せんを慮ニあり得べからざる  
ニ非ざるのみならず又其畫策を露人ニ告ぐる  
非ざる也

露國棉花の禁  
制也

露國ハ棉花ハ爆發障の製造ニ使用せらるるの  
故を以て之を戦時禁制品と宣言し



日本公債の發行

五月十二日

五百萬磅の日本公債、昨日九十三半を以て發行せしむるに、林公使は株式取引所へ臨み其應募手續書の配布せらるる、や非常なる喝采あり、割増相場、三磅八分の三、騰りたり

英國公使、対する外國の引受人、巴里、來着しつ、ちり公債の圖を了形式、未だ決定せむ、恐らく最初の發行高、二千四百萬磅、一七次回、八百萬磅りるべし

△ 日本の新公債、倫敦及び紐育に於て共々大成

英國新公債の發行

公債應募の盛況

功を覓其應募高は幾層倍に上り申上簿、既に詳切りとなし

△ 印度事務大臣、フロドリック氏、本日下院に於て英國遠征隊の西藏人を速にギヤンツェに於て商議を存せし同意せし、那がハハラハ府に進軍し可しと誤述したり

△ 倫敦駐劄清國公使ハトランスガアールに清國の勸告と輸入する事、関する協約を調印するの権能を與へらるなり

英國遠征隊の天心

南河と清國人輸入

海軍協会  
戦勝

△海軍協会の集会：於て議論は本軍の老たな  
戦勝：及び其海陸両方面の進取的行動に對し  
十分準備の整頓し居た点に以て無識の徒  
を示すべき好個の實物教育なりとせり

教信の應募

△日本公債の非常の人氣：は應募額其度行額の  
教信：上り高橋日本銀行副總裁が株式取引所  
に臨みたる時、大歓呼の同、連へられたり

五月十三日

日本公債の好況

日本公債相場：二磅八分五厘の割増あり  
應募

清國の青泥産  
破壊

額二十倍：達して之を締切なり  
紐育：募集するに同公債は亦應募額募集額  
：超過して本日締切とあり

アレキシーフ總督の報告する所：據れは瓦國  
に敵の青泥産を其根據地ニ使用せしむるを防止せ  
るに爲り船渠埠頭等盡く之を爆發せしめたり  
と云へり

清國の請願書

清國人カトランスカアーに移住ニ関する條約  
本日：於て調印の事なり

五月十四日

露國の列國に卒先して美仙根高附帯の阿非利加太守直言に承認を與へたる仙國政府の之を房の外務卿ツルハカワセ氏を以て露國に對し斯の如くにして貴重なる友誼の新證據の共同盟國に與へられたるを鄭重に謝せしむるなり

美國印度事務大臣ブロードリフ氏に説明して曰く西藏に發せらるる心増遠軍隊に美國歩兵四箇中隊土人歩兵四箇中隊及び砲四門を成るものなりと

露國の阿非利加

美國の西藏遠征

露國の勅令を以て五令利付外國公債三千二百萬磅の發行を許容せり

スタンダード新聞聖彼得堡電報に據るハワルソンの動搖を以ての風説類は行は小高寄官吏殺害を以て民情未だ靜まらんとすとの標識なり内地に完全なる秩序を保持せんとするに於ては戦争に勝利を得るを以て甚だ必要なりとすと云へり

五月十五日

露國の海外債

ポロランド私

夜間汽船買入

ハムブルグ アメリカ会社は又一隻の汽船を  
夜間：賣渡せり

米国の日本公債

紐育：於りし日本公債、應着高五倍の巨額に  
達せり

旅順に囲まじ

夜間より報：據小バ旅順口の包圍、確に初  
めより小たふせり、此

かしの砲台  
軍隊の上陸

片岡司令長官の率ゐる艦隊は昨日カールニと  
砲撃し陸上砲台は直に沈黙したる日本軍隊ハ

艦隊砲火の掩護の下：上陸し市街を攻撃す

夜間新司令長官  
の来任

新任夜間東洋艦隊司令長官スクリドロッフ提  
督は昨日イルクークを通過したる

西藏の天心

ギヤンワエ五月十三日付ロイテル通信員の報  
道：曰く西藏の喇嘛ハ美軍に對し神駭なる戦  
争を序す可き旨説教しつ、タリト

埃匈國特別軍  
費

千九百五年度豫算案埃匈國代議院に提出せら  
れたる同案ハ異常の軍事費を包括す即ち特別  
陸軍費三百五十萬磅ニして内二百萬磅を野砲

袁國と袁軍の事

：袁の海軍費は總計五百萬磅にして其支出は若干年を亘る

袁國は十字社の其極東に於ける首任代表者より日本軍を鴨綠江に於ける袁國の負傷者を看護しつゝあるを證言するの電報に接したる

五月十六日

△ 滿洲に於て日本軍の優勢なると馬賊の敵討ちとに依り聖彼得堡にこの危機の念を表言せらる

3

袁國の危機

袁國の危機：總領事館を置く

△ 米國の牛莊港に商業上並に政治上重要なるの故を以て同地を總領事館を設置したる

袁帝の軍師見送

袁帝の戦地に出発するに軍師を告別せん爲る十日間の豫定を以て五月十五日カルクツフ及びキイエフに向ひ聖彼得堡を出発したる

袁國の軍事費と專論

莫大なる陸海軍特別費の要求に維也納に於て驚愕の懼を惹起し新聞紙に斯くの如き負擔を填匈國に課す可き十分の根據ありと信する能はるると論ず

バルカンの三國同盟

△ブルガリアのフェルナンド大公、重なる其  
國務大臣を引連水昨今モントネ子ケロと和睦せ  
しセルビアのベエター王を訪問しバルカン三  
國同盟と協議あり

奥匈國の軍備擴張案

△奥匈國政府が軍備上本年度豫算を増加  
せし、況して不用の増加、せしに、奥國の各軍  
隊も一層兵備を嚴にせし、必ち有す現に  
絶東の戦争、最も軍備を必ちを永く、足ると  
豫算委員會に於て政府當局者、演説を又外務  
大臣の演説、バルカンの情勢、趨向直しきと

仙國名士と日露戦争

得たり、絶東の戦争、就ては時間と場所とを成  
る可く制限したき希望を抱く國防上特別の  
必要、極りて大なりと云々

仙國豫算委員長ゾーメル氏、饗宴の席上一場  
の演説を試み、露國との同盟に對し若干の仙國  
人が疑ふ可き態度を持て、劇しく批難し、東  
西兩洋の文明の争闘に於て仙國が黄色人種に  
左袒する、出来得べからざることなりと曰へ

奥國外相と日露戦争

奥國外務大臣ゾルチヨウスキー伯、匈牙利ブ

クペストの代議院に於て演説して拘束の形勢  
以暗澹たり其如何に長く戦争を継続し可きや  
ハ之を測定せんと難しと云ひ戦時禁制品を廣  
義に解釋せしめ見地より西支戦国相互の協定  
に依りて之を規則と設く可きを暗示せり

列國ハ土耳其に向ひ若し其改革に失敗すれば  
於てハ同國を陥す可き重大なる危険に付警  
戒したり

清國政府ハ假令ハ如何なることとありし清國ハ  
嚴重に中立と格守を可きと列國に證言を可き  
旨駐外公使に訓令したりと公報あり

五月十七日

露國に於ける汪偽軍臨時費が非常の巨額に上  
りたりを露國内外の驚駭と憂慮とを來せり

△ 聖彼得堡よりハの報に據ればハバトキン將軍  
哈爾濱に撤退し同地に於て之を援軍の到るを  
待ちんとす將軍ハ日本軍の哈爾濱に達するに  
大週日を要せんことを豫期し露國人ハ皆日本を  
以て先づ旅順口を攻撃するものなりと認め居

ルリとつふ

英國汽船カムロコノ號の乗組員たりし三人の  
印度人及び獨逸汽船の乗組員若し日本人たる  
の嫌疑を以てクロコスタフトに於て捕縛せら  
る

フルーグ將軍の電報して遼陽へ向けし日本  
の進軍は以て其決心を見せし是るべしと云ふ  
日本軍隊の目的地は海城以西にあることを想  
像せり

△ 信憑するは是より可き最近報道よりハ露國の  
諸新聞紙は表面上開戦以來三箇月間の成行は  
つき満足な装束居れり聖彼得堡に於ける一  
般の議論はクロバトキン將軍の任地につき最  
も悲觀的の傾向を示せり

△ 獨逸の軍事批評家一般は満洲に於ける露國  
の戦闘準備の空虚を其戦畧上の缺點として  
鋭く非難せり

五月十八日



スタンレー氏  
葬儀

阿非利加探検家スタンレー氏の葬儀、壯大なる儀式を以てウエストミンスター寺院に執行せられたるに、皇位、白身義皇帝は皆その代理人を之に出せり

英國の印度郵便

政府の全線毎時同二十四哩の速力を行を以て現存ピーターソン社との郵便物輸送契約を千九百八年度まで延長するの協議を締せり即ち此期日の間、於て此上の進歩の果して競争入札に依りて得らる、や如何と決する意あり

英國の西藏遠征

印度事務次官ハードウイック卿、上院に於て

日軍遠陽の北  
と絶つ

スタンレー卿の質問に答辯して曰く英國使節は對敵意の表すべからず、決して政府政策の誤れざるを表明せしむべし、又らに政府は此より遠く大なる危難を擧げべきを以て豫期し居たり、其のなり、曾て十一月六日に於て宣言したる所、即ち使節のラフサに向ふを妨ぐるもの、又らに英國は今既に西藏と戦端を開きたるものなり、其地位の兵力に依りて確立するべきに至るまで郵署を以て西藏人に對し、一英國は新して蔑視さるべからざるなりと

△ 日本が寛甸板障、明、湯河太子河の河岸に沿

敵將相関

△ 進軍したるレヲ、如く遼陽の東北東二十里  
哩ハ、ンシフーに達し、敵兵の片翼と包りし  
△ クロバトキン將軍ハ、皇帝ニ對し、悲觀的電報を  
發し、既往の戰術的錯誤ハ、返す之ヲ補綴すこと  
と能はずと云へり  
△ クロバトキン、押しキシーフあるの意見ハ、全  
然相反し居りし

敵人曰く潜水艇

△ スラッセル將軍ハ、ボロエダの去月十三日日本  
潜水艇ニ依りて其水雷ニ掛けられしと信し  
居りし

敗戦軍團長

△ 鴨綠江ニ敗戦したる軍團長(サズリフチ)ガスリフチ將軍ニ  
交迭を命せし居りし

皇帝の口軍評

△ 覆國皇帝はカルコツフに於て其軍隊ニ勅語を  
賜ひ、敵ハ豪膽にし、且つ有力なりと云へり

日本公債の好況

△ 日本五令利附公債ハ、本日一磅方騰貴し、四令利  
附公債亦半磅方騰貴し、一令六令利附新公債  
ハ、倫敦ニ於て三十一億の応募者を得相場ハ、依  
然二磅半割増を保ち居りし

△ 二篇の日本兵去る月曜日(十六日)蓋平の南  
二十哩の地、上陸し直に海城に向け北方に  
其進軍を始りたり

岫巖より進軍したる隊、昨日海城の附近に着  
せり

敵兵は全然牛莊を撤退せり日本兵本日之を合  
領すなりんと豫期せらる

十月十九日

鴨緑江の敵軍部隊司令官サズリツ千將軍は第  
二西比利亞師團長を免せり(ケルラー)ケツラ一將軍之  
に代りたり

鴨緑江の戦況 臨みたる敵軍團長カスリツ千  
は其職を免せりケル(ケルラー)西比利亞第二軍團長ケルラ  
ア將軍に代りたり

カルカワタに於けるジャーン マジエソン  
商會のケスウツク氏死去せり

クロバトキン將軍より敵國陸軍大臣サハロフ  
將軍に死したる報告ハ日本軍が其遼陽に向ひ  
行進中を鎮したる若干の地点を放棄し之を鳳凰  
城に退却し同所に土工を築きつ、ちり降雨ハ  
道路を悪しうしめたることを説述す

埋岡陸軍の說明

埋岡陸軍大臣の代議院に於て説明と共に  
曰く特別軍事費に於て政治上の形勢と關係  
を有するに非ず兵運の戦術の發達に從ひ砲  
兵を改良し艦艇を艦裝するに就き大勢に伴ふ  
の必要あるなりと

露國禁制令の解説

英國外務大臣ランズドウニ對し露國の質問に  
對し五月十一日の通牒は專ら生綿に適用する  
ものなりと答へたりと曰へり

五月二十日

浦塩砲艇の大破壊

露國装甲巡洋艦ホカチル號の浦塩港口に於  
て坐礁したり恐らく艦隊に全然破壊し乗員の  
大部に溺没したるなりとの浦塩艦隊指揮官  
エフセンより電報巴里に於て發表されたり

英國民の同情  
(二艦と表す)

日本海軍の不幸に英國に於て濃厚なる同情を  
喚起したり然れども上流人士の一般に信ずる  
所は據るに此の不幸に東郷司令長官の作戰計  
畫に對し何等の影響を與ふることなからずべし

秋軍退却の説

露人の日本軍が鳳凰城の西方六十哩たる要害

より鳳凰城に退却したるを確説す

敵の生口回復

ハ更ニバルチック艦隊東行の説あり然れども從  
し同艦隊にして極東に到達する事とあるも其  
勢力に因りて日本に如る事と信せらる

我愛笑と我園

新聞紙に初瀬吉野の亡失に對し親切なる同情  
甚深なる哀悼を言明す

西比利亞の海港

聖彼得堡より之來報に依れば露國に遠うらば  
西比利亞の海港を貿易の場以開放せらるべしと豫  
期せらる右海港中には浦塩をも含む

五月二十一日

ルーズウエルト氏の大統領候補者：擧げらる  
るに確あり

英國の正藏遠征

西藏人の英軍の後方陣營に郵便物を輸送す  
八人の印度を伏し隔れ左より郵便夫に數時間  
戦闘の後その三人と失ひて遂に陣營に到達す  
るを得たり

五月二十二日

露新電報の報より所々據水ハ旅順の陸軍總  
督スラフセル將軍ハ要塞より打つて出て日本  
軍を撃退せり之亦存り日本兵の死傷一千  
及び露兵百五十(死)戦一たりと

初瀬吉野二艦の喪失の報ハ露國ニ於て歡喜せ  
られ亦各新聞紙ニ載れ日本海兵の勇壯なり  
最後ニ對し吊辭を述べたり

五月二十一日

五月八日仙國の抗議ハ大統領の伊國訪問ニ因  
して法王廷の述べたる故障ニ對する(と)度し  
たると同時ニ羅馬法王廷の列國に發したる抗  
議書中の文辭より一法王廷ニ度せられ居た  
る仙國大使ニ函ニ召還せり云々

五月二十二日

△ 聖彼得堡より之の報ニ據ればステラセル將軍旅  
順口の出撃ニ成功日本の包圍線を攻撃し之  
と破り其地点ニ多岬城子近傍なり其後  
將軍ハ要塞ニ歸れりと云ふ

但し損害：つまり傳へらるる所ハ誇張：先せ  
るもの、如く此報凡て信せられず

夏兵の蒼平撤退

△夏兵ハ蒼平を撤去して海城ニ退却せり

五月二十三日

ロイヤルノ聖彼得堡電報：據ルハ曰く陸軍大  
臣カカロフ氏ハ日本軍が再び遼陽：向て其  
進軍と初めたるを發表す種々の報道：依り  
教團技隊の運動ハ鳳凰城の西北五十キロメ  
トルと算する諸点ニ達し去ると告ぐ馬匹兵負

日本軍の前進

甚だしく疲勞し居りしと云ふ

羅馬法王廳佛國大使ニサール氏羅馬を撤去せ  
り左ハ大使館書記官代理公使として其事務  
を次へり

夏國新艦の  
説

仙國大使の  
馬引揚

此程進水式を行ひ吃水の深さ其後周り無  
く取彼得僅に於て膠着したる夏國戦艦ハ  
號ハ五月十九日又々クコンスタウトに於て吐  
瀉し再来艦部ハ深く沈没し居りし原因ハ艦底  
管の開放せしむるに依りしものなり其如  
何ニして開放せしむるに明なり本艦ハ

夜艦浮上

甚しく歪形と云く居り

クロスタットに於て噴出したる夜艦戦闘艦  
オレン號は浮上せず其坐所したるに製造に際  
し鉄板の釘付不注意なりしに依ると報せらる

夜艦破壊中

聖彼得堡に於て報せらるる處に依れば夜艦巡  
洋艦ホカチル號は其故に雖も見えぬ夜艦自  
ら之を爆殺したるにやなりと

牛莊再占領理由

夜艦の参謀本部は牛莊の再度占領せしむる  
に日本艦隊の亡失に依り發起せんたる形勢の

夜艦の提督の  
浦

変化に基づくものにして日本艦隊の亡失に遑  
東に看したる運送船の進度と不安ならしむる  
つてしと思惟す

新任夜艦東洋艦隊司令長官スクリッドに提督  
ハ浦艦に看せり

五月二十四日

夜艦の提督の

聖彼得堡より之の報通に依ればアレキシエフ提  
督ハスクリッドに提督ハ哈爾濱を通過したる  
時之に面接せんと拒絶したるに似



ボカチの破壊

○ 露人の吐瀉したる巡洋艦ボカチ一丸を浮上  
らしむる能はざる處より自ら之を破壊したる

ボカチの損傷の理由

△ 露国戦艦オシエル號ハ爆発の爲る損傷を蒙り  
後一部分がアガア河ニ沈没したる原因ハ故意ニ  
之を爆発せしめたるものあり依る

露国に悪影響を及ぼす

露国上流社会の某有力者ハ極東ニ於けるウロ  
バトキン將軍現今の地位並ニ將來の戦果ニ就  
て悲觀的意見を發表せしむるに戦争の爲りニ露  
國経済界の重大なる悪影響を被る可き證據あり

亦銃出しつゝあり

露國が故意ニ公海ニ敷設水雷を濫投しつゝあり  
リとの証左ハ益々増加し英國新聞の強烈なる  
攻撃と惹起しつゝあり

テレグラフは日本ハ代理店ハ今や台耳義ア  
トワープに於てニ三千噸の汽船若干隻を購入  
しつゝと証せむ

露帝ハ五月十六日(?) 聖彼得堡ニ歸す

水雷濫設の批証

日本の南無船積文記

露帝の歸都

土耳其皇族来

土耳其皇帝の女婿として且つ待従武官たるマ  
ルパシヤは前土耳其皇帝ムラドの皇世たる  
カザンエ内親王と往復し居たり、秘密文書の發  
見せしむたる結果として若干の高麗と共に五  
月二十一日（倫敦に？）到着し居り

五月二十五日

夜國ハ更ニ三十隻の大汽船を賣る旨アント  
ワリア及びロツターダムの船所有者ニ通知  
しボールチック艦隊ニ隨從せし居る六月末リ  
ボリに於て受渡せんことを記す

ボールチック艦隊  
出帆準備中

水雷の名連  
号

夜國ハ従来日本のみの所有たりしボワイトへ  
ワド式奥形水雷の最新式模型百個を注文せし  
仏伊喫りたる之に注文と復せし

五月二十六日

スタンダード新聞ハ其日付を有せし夜國上  
りの一通信を發表せし右ハ頗る能く夜國の事  
ニ通むる通信負ふに復せしむたるものなりと  
稱せししものにして即ち曰く

ワルソーは若干の先頃の騒動後六百名の裁判  
を待たせし行政命令ニ依り絞殺せしむるも

夜國を以ての動搖

獨逸軍艦と云ふ  
うんとう

のちり同様の處刑又ハクロンスタットに於て  
も行はれたりモスコに於てハ闇夜ニ乗トハ  
百箇の楫の軍隊護衛ヲ下ニ市街ニ送り出さる  
るを見たりと風説あり  
おは右通信員ハ戦争の商業社会及び農民の習  
：共一たる結果ニつきて慘憺たる事情を叙述  
し且つ農作ヲ不良なるを報せり

△ タイムスは信むべき節より聞く所ニハハ  
獨逸より七千噸の装甲巡洋艦四隻を買は  
んとし之努力しつ、ちよと同時ニ獨逸より水  
雷艦及び運送艦若干隻を得つ、ちり右の運送

船はハンブルヒアメリカラインの所有船あり  
と報せり

浦汐艦隊歸路  
困む

△ スクリドロフ提督ハロシヤ號ニ搭乗シケル  
● ボイと共に浦汐を出港し之敷理の沖合ニ出  
でたニハ歸路濃霧の存り港口を發見せり、困  
難あり

美國遠征隊の苦  
戦

△ 美國の西藏遠征隊ハ著しき抵抗を交り、ち  
りて援軍ガヤンツエに進軍中なり

美露關係

新任露國駐劄美國大使ハ一ケンダ氏は其信任

状を尋呈したるに際し、英皇陛下エドワード陛下  
より、の私書と英皇陛下に渡り、英皇陛下は英皇陛下  
間に出來得る、尤け最良の關係を維持せんことを  
を希望する旨言明したる

美仙協約の黄書は仙國外務卿カワセ氏に  
外國に駐劄せし自國公使等を送りたる書翰と  
有る即ちカワセ氏に埃及は國として仙國人  
の財政上の利害關係に對する保障、若し年間  
彼等の埃及公債を借り代へるべくは償還せざる  
らんとするの計畫に依りて強國と爲せんと曰  
へり

五月二十七日

△ 露國ハ昨日報道したる四隻のアルゼン  
タイン軍艦の外更、一隻の巡洋艦を仙國の手を  
て購入したりとの報あり

△ 日本公債は本日一磅方騰貴したる

旅順口海軍指揮官ウイットケフトは本月二十  
五日附より報告し曰く  
五月十九日の夜敷設水雷を以て旅順口を封鎖

夜國更ニ商船  
買入

夜國の死刑後報

せんとするの新計畫又行はれ  
五月十八日より二十一日に至るの間は於て日  
本水雷艦二隻、小艦一隻沈没したると信せら  
る  
露軍は日本艦隊の敷設したる水雷十一個を取  
除けたると

夜國政府は近頃美國に於て軍隊輸送船に充用  
せしむることを得べき快速力の貨物船若干隻を購  
入したると報せらる

五月二十六日電報に於て夜國政府は行政命令

を以て多數の人を死刑に處したるといふ純  
然たる幻影なりと聖彼得堡に於て宣言せらる

△ 日露兩國は政務諸港に於て各船舶を買入れつ  
つぢ

△ 夜國の經濟事情が果して戦争の強壓に堪へ得  
るや否やの疑問として説明せらる、又夜國內  
部の状態は大に不安を加へ政府は之を鎮壓せ  
るに爲すに嚴勵なる手段を採り得らる

五月二十八日

夜國の  
果て

日露各  
買入

金物と本提と英國の激賞

日本軍の金物、於ける勝利は日本軍が海陸共ニ奮軍よりも優秀あること、討つ鴨緑江の勝利より一層強固なる密未機を設定するものなり、何となく金物、於ける奮軍は其防備を整ふるに討つ多大の時時日を有しを承るべきとて倫敦に於ける新聞紙に一般に之を激賞しデシリリ、テシカラフは此の勝利は如何にして戦闘あるし、指導せしむる可らうなることを来屯、於し有り得べし、最も完全なる標本の一なり、日本軍の品質は日本軍を以て強んじ、理想の軍隊たらしめんとす、日本軍は最も驕慢な

未國モロッコを奪

政罷巴軍隊の佐伴なりと曰ひスタンガードは日本軍人の勇武、又々凡この障害の克服可らうなるものなること及び優勢、常、其敵を以て勝者ならしむるものとを認識するを拒否せしむると曰ひ、ケラフイフクは奮軍は優秀なる指揮と最も不撓なる勇健と、依り其堅固墨より駈逐せしむると曰ひ、モロッコの匪賊、美人がアリス、未人バードイカリスとタンカール附近に於て捕縛し、未國政府、之を賠償し、引取の條件を拒絶し、目下テ子リッフ（カナリ、群鳩）及びアゾ

—ルズ—西太西洋：在、葡萄牙領群島—：碇  
泊せし南太西洋及び歐羅巴兩艦隊の軍艦七隻  
ニ向ムクニザールに進航すべしと命じたり

五月二十九日

仙國新聞と金  
戦争

△ 巴里新聞タムに日本戦術の巧妙な事と且つは  
日本兵の勇敢な事と：對—歎稱の言を序せし  
他の仙國新聞ハ金銀の戦を重視せり

△ フラッセルより報：據ハバ夜國ハ五十萬磅  
を以てハムブルヒ、アノリ會社汽船ドイッラ

夜國の船隻購買

インド號を買取りたりと

五月三十日

南山：於ける日本ハ損害ハ今三千五百を以て  
算せらる其分捕砲數ハ七十門以上ニ及べり

日本人ハ二週月内：旅順口を撃破し得べきを  
期す之を行ふ：於し其損失の最も大なるハ覺  
悟する所なりと覺し大兵を備へて三箇月間を  
徒消せんより—寧ろ之と敢てせんことを欲す

南山を領し日本  
掠奪す

日本の決心と  
旅順攻没

明治三十七年六月分

路透電報集

附倫敦特電



五月三十日

華聖頭政府の報告ハ日本下瀬大榮の怖るべき  
力：つき叙述し爆裂彈破裂の結果、未國陸軍  
武官の日本軍：経軍し左のしうを驚倒せしめ  
たりと云ふ

テリリーメーレンのチエムロ通信：據ルハ  
美国使節軍の舍營：迫く西藏兵の築壘し居ル  
村落に對し五月二十六日掃蕩を行はしむに  
カースツン中尉及び三名の印度兵戦死しオカ

喜望峯の支那人  
同送

十一大尉、十三中尉、ウオカ一中尉、  
兵卒九名負傷せし、西藏兵の損害大なりと云ふ

喜望峯總督、支那人排斥案に同意せしこと  
差控へ暫く皇帝の意向を探らんとす

九月三十一日

ロイテル奉天通信員の報に據れば曰くコサツ  
ク兵黒木將軍の殿衛を愠み居少く之を盾に  
日本に其進軍を中止せしむと

敵の戦報

摩天峯を占領

△ 日本軍に摩天峯を占領したりとの報あり

遼陽の大困難

△ 遼陽よりの報道に依れば同地の糧食大に欠乏  
を告ぐ馬賊との小衝突<sup>非常</sup>絶えず婦人並に小  
児も同地より撤退せしむる者ありたりと  
彼得堡に於て公表せられたり

西藏人の頑強

△ ラハサ府の砲台を築造し英國遠征隊に對し頑  
強なる抵抗を為すに決したり

日本捕虜トラス  
に付す

日本捕虜二百六十八名トラスクに到着し  
其大部分(7)は旅順口閉塞船より捕獲せし

たる海軍々人なり得校々一月月五十一ル一アル  
より七十五ル一アル 俄討撃日一日十六コベツク  
宛の手當を受く其舎營を見舞ひたる流人の卒  
の清淨清楚なる：吃驚したり

華聖頭より<sup>の</sup>報道：依ルル米國々務卿へイ氏  
はモロツコ匪徒の居り：捕獲せしむる未國  
人バードイカリスの釋放を得んが居り仙國：  
討し調停の勞を挿らんことを請ひ仙國ハ之：  
同意したりと云ふ

目下四隻の米國軍艦タンカールに在り英國提  
督亦是國公使と会商せんが居りサーゴライス

號：搭してタンカールに看したり

水曜日と以て行はる、ダービー<sup>(B)</sup>競馬の賭左の  
如し

品名

グーベルサント	七：對する四
ヘンリー	四：對する一
セントアマント	五：對する一
ゴイント	十一、對する二
アンドグアー	百：對する八
ランカシア	
セントパニス	

旅順改修準備

コクスエーン  
ラ、ロツク  
ホブリンスキー  
エピターフルーヴクローアス  
モンテム

各三十三  
對する一

六月一日

△ 旅順にステラツセル將軍：余はるに旅順に陥落の際に砲台、建築物に之を破壊し軍艦に浦場を到着せしむるに努力せざるべからざるに代表し進出せし能はるべし是れ亦破壊せざるべからざる

旅順着馬集

△ 寺しく聖彼得堡より来報に依れば寛甸縣の北方なる賽馬集に於て三日間小戦闘あり結局旅順は退却せしむる

ダービー競馬の結果

ダービー競馬の勝馬左の如し  
スタマント、ゴイント、セントテニス

旅順外相を改す

旅順ドルゴルキ公は外務大臣ラムスドーフ伯爵に聖彼得堡の街上を歩行せる際烈しく之を殴打し拘引せしむる

美仏協商と議院

露國總督の死去

カリービ競馬後

トルゴルキー公はパンヌラガ論者にしてラム  
スドルフ伯の平和政策に強烈なる反對を爲  
し居たり人なる可發狂せるものと思せらる

美國下院の満場一致を以て美仏協商可業の  
第二讀會を通過したり

土耳其斯坦總督イヴナーノフ氏死去したり

カリービの競馬の行はれたるハ大雷雨中あり

六月二日

大陸對峙の見解

旅順陥落の結果  
憶想

△是より露國側：立ち居たる政務大陸有力の新  
聞紙も近頃：至りて日本人の智力的及心道徳  
的性格：付て深厚なる賞讃を蒙る：至りし  
而して戦局の真相：對する正當の見解は従前  
：比して更：多く世：行はる

△種々なる方面に於て勢力を得つ、ある觀察は  
旅順の陥落の戦争を終局をへりしことと期す然  
れども露國の官邸に今尚ほ旅順落城の事則得  
べきことを信せず

△ 信おへき傳説：據ルハ夜國、極東派遣準備中のハルキフク艦隊：液体燃料（石油）使用の装束をなせり

△ 遼陽方面：對する黒木大將の行動は今日迄遼東半島：ウミ注意し居たさク口バトキン大將を―し更ニ此方面ニ注目せむるべしうがさる：至ら―りたり

△ 夜都：し…日本の大孤山（大連湾の東突角）  
―其他の地：兵を揚げ旅順攻撃と実行せり計畧なるべしと信せらる

美國總理大臣ハルフォード氏…美仙根高：關して演説中語次マスカートに於ける仙國旗章の掲揚：亘り昨年美仙兩國間：之を居り甚たし難問致の生じたり…全く事實なり大問題に目下海牙裁判廷：委附され居りしと云へり

六月三日

英國陸軍大臣アーノルドフォードスター氏の公言する所：據ルハ政府…徴兵：関する何等の議案を提出せんとせり…の意志なりと云ふ

奉天夜軍司令部ニあるロイヤル通信員の報：  
従へばクロバトキン將軍ニ大仕掛けの攻勢運  
動を執らんとし既ニ其準備を備へたるもの  
の如しと云ふ

△ 聖彼得堡よりの報ニ據ルバ曰クアムシキシーフ  
クロバトキンの兩撤軍見と異ニ之を裁断を  
夜帝ニ仰ぶたると夜帝の顧問會議ハクロバト  
キンの説を可なりとし之ニ旅順口の救援を企  
てしむるとも居り之が居りクロバトキン  
は南方ニ其兵を動かさうと講ト居りヌマ

ルケンブルグは一萬四千の兵を率ゐて瓦房店  
ニ行進し居りとの説ありと

倫敦市はカーゾン卿が印度總督として其任と  
行々の才幹と熱心とを兼認して之ニ自由市民  
権を附與するに決せり  
スタンダード新聞ハ盛なる廣證的語調を以て  
カーゾン卿の施政を評論也

六月四日

ローヤルフエーザリーア隊兵二箇中隊を

海軍の砲撃と敵の狼狽

以て成る司令部々々ムロに到着せり

ステワセル將軍が南山に於て句帳筆を走らしてヤンクを以て營口に送り同地より打電せしめたる報告に曰く日本軍の砲撃は殊に砲艇水雷艇の砲火に金剛の砲台を殄滅せしめたる余は南山を放棄せざる先ち大砲を爆裂せしむべきと命じたるも殊に退却せざる必要ありしを右の余令に僅に一部分通行せしめたるのみと

樗逸の半官新聞紙に極東問題の最後の解決に關し露國との間には協高ありとの報道を鋭く駁

樗逸類に取消

撃し尚且露國を債に對し樗逸に於て高議進行しつゝあるとのしとを以て強く否認す

六月六日

ホルムツツク艦隊

△ 露國に看し旅順口に在りし右領を以てホルムツツク艦隊發遣の意思を放棄せしむとの説あり

露國の攻勢戦果

△ 聖彼得堡よりの報にこれハ皇帝を議長として參謀本部の大会議開催す其席に於て露國の攻勢戦果を取つて次したると云ふ



日本公債の償還

○日本公債、各半磅方賸賣せり現今の相場四令  
利附七十六磅、五分利附八十七磅、新債券権  
利三磅割増なり

敵の報を旅順  
近状

傳書鳩、依りて旅順口より傳通聖彼得堡、  
傳達さるなり此報通、據るに旅順の狀態間然  
先所ありと云ふ

斥候衛文と長  
田公使

陸軍大臣サカヒロヲ將軍の報告たる所、據るに  
コサツク兵、五月三十一日分水峯嶺、於て日  
本兵と交戦し日本兵を其占據し居たる強固な

る丘陵陣地より驅逐せりコサツク兵の死傷二  
十名なりしと云ふ

清國軍情と云ふ

清國軍隊：不穩の状あり居り滿洲境界の形  
勢、関して聖彼得堡の憂慮を感むること益々  
大なり馬將軍の遂に其率ふる軍隊を制する能  
はざるに至らんことを恐る

敵の主力無能

△觀戦の居るクロバトキン大將の軍：従へる各  
國の陸軍武官、其本国政府に報告せり、同大  
將不活澆なる軍事行動、出で得ざる有り従軍  
武官、執れし無事、苦り、もと同大將が夏國

宮庭に於て既に信任を失へるを以てし又旅  
順より去塞一度臨幸せし國內各所：内乱の蜂起  
を以て慮あつて以て露國の運命…一：整頓して  
旅順にありと報じたる由傳へらる

獨逸新聞紙…英國皇帝のキール訪問を以て政  
治的なりとて英國とを比スマルクの再保證主  
義を以て獨逸と親交を締せんことを欲せし  
の意向と居せし

タイムスに此出遊を以て親族關係より在る國  
際間の禮儀に出でたるものなりとて其政治的  
動機に出でたるにあらざることを有力に論辯

此点：亦々多々又は官邸の意見を反映した  
るものなりと信せらる

聖彼得堡より來る一切の報道…クロイツェン  
將軍の旅順口救援の居る南方運動と初むべき  
ことを命ぜらるるなりと云ふに於て一致す或る  
批評家此一致を以て北方への其德退却を  
隠蔽せんが居る：策せしむる所なりと表  
面救援を企つたもの、如くして強大なる殿  
衛を存し之を以て示威的：其退却を掩護せん  
と云ふものなりと解す

六月七日

夜間皇帝、第一軍団の動向を命ぜり右軍団管  
画、即ち取得僅地方を包含せしものなり

クハトキン將軍より報告に曰く  
六月三日鳳凰城の西十八哩徐家鋪子に於て互  
時間、且つ戦闘あり日本兵、築壘せし其陣地  
より進軍せんことを試み野砲の援護を受け  
たゞコサワ兵に依りて撃退せられたるものな  
りコサワ兵、十六名の負傷者を出せりと

○ 芝罘登州兩所より之の報に據れば昨夜旅順口に  
激しき砲声あり本日早朝に及ぶまで連続せり  
と云ふ

聖彼得堡より之の報に曰く旅順口の艦隊に封鎖  
を破れし突撃を以て浦塩斯德艦隊に命ぜり小  
を命ぜり小なりと  
思ふに此計畫破壊されたるものなり

海軍専門家の確信する處に依れば其出帆日の  
絶えず延期せらるるおしき千ワケ艦隊に便し  
發程せらるるなりと云ふなりと云ふなりと云ふなりと

達よりと無う可いと

夕ママに向い横濱を出帆したる北太平洋汽船  
会社汽船ゴレイアが不獲に推進器と失れ八百  
理同曳船：或るれに晚登坂：到着しき

六月八日

△ 野彼得僅りの報通：依水バクハトキン将  
軍、旅順口救援軍四萬と親しく指揮を了しと  
とるうんと云へり  
スタウケンブンの將軍ハ大石橋：退却しき

との説あり

△ 美国海軍大臣ハフォーア氏、議合：於て演  
説して曰く日露戦争：より誘起せられたる海軍  
：関与する国際法上の問題：執事の公文書と公  
：するハ未だ公共の利益：甚ら比今や政府、  
一切の問題：付精密：注意しつ、ちりと

△ 美国戦艦船ブリンスオウエルズ號ハガハラ  
ルタルよりタンジールに向い發航を以て47  
ラルタルよりセノアに行うんとせし巡洋艦一  
隻戦艦七隻ハ出立を見合せり

△ 昨報新聞通信員吾國人エツツエんの殺されし  
は、船に、遠河を溯る際海賊と誤り、支那兵  
に打たれしなり

モロッコ王ハ新地方官を任命し以て匪徒ライ  
スリーの一要求：鷹トたく尚ほ他の要求も亦  
捕虜の釋放を以て連なりしゆんが、房ろ之を  
鷹諾せんとせむの説き  
米國戦闘艦イリノイス、ミソソリーの二隻更  
ニ米國を以てタンヤーンに航進す命を受けたり

△ ヲロバトキン將軍の張帳救援計畫ハ盛ニ評論  
されし、然れども一般ニ右の計畫ハ必定  
失敗：予不べしものなるが、多分実行の運び  
至らざるべしと觀察せり

△ 日露開干渉：周在る誠談的揚言行はるし、彼  
得堡の意向ハ如何なる代償を払ふと戦争を  
継続せざるべしと云々

六月九日

△ 運送船と護衛せし三隻の日本軍艦昨日蓋平の

南方より熊岳城：至、海岸と砲撃したる

露國將校十二名戦争継続反對の暴動：同藩に  
たると居るゴルタワに於て銃殺せられたるもの  
説あり

露國陸兵百名かりし丁の國境を通過して墺地  
利領内：逃去して、去り

第二輕気球隊：來る十五日 露都を出發す

日本公使：昨日使に四合の三磅方膠賣したる

露國の輕気球と  
送る

日本公使の持費

米國水兵白耳義公使館を護衛するに居りタン  
カールに揚陸せしむるに、そのありしが其  
後の電報に依りて右に只二名の水兵が飛離れ  
た。家屋に位せし米國人なる白耳義公使夫人  
の護衛を命ぜられたるに止りしつゝなると  
明白と存せり

フレデリック太公は墺地利皇帝ランツヨ  
ーセフ陛下の名代として 美國皇帝は墺地利元  
帥の徽章を捧呈し明日オルダに到つたに於  
て第一軍の閲兵式に臨む至る所最も懇懇なる  
歓迎を受く

ワロバトキン将軍ハ報告シテ曰ク日本ハ一旅  
團ニ去リ七口鳳凰城ノ北郊ニ於テ賽馬集ヲ攻  
撃シテ夜軍ニ敵ハ兵負多ク一ハ故ニ退却  
シテ北湯江名

六月十日

△又タニカド新聞オデフサ通信員ハ信憑在リ  
ニ是レハ心テ哈爾濱ナリハ電報ヲ報通シ  
多數ノ武装セリ馬賊軍ニ國境ニ於テ四萬ノ  
清國軍隊ニ今ヤ之ヲ抑制スベシト云フ

清國の中ニハ危殆ニ瀕スト曰ヘリ

△左達陽敵國司令部ノ言ハ所ニ依ルハ援軍ノ到  
着スルヲ俟テワロバトキンは直ニ進軍スル  
決シテリト云フ

△ワロバトキン将軍ハ火曜日(七日)ノ戦闘ニ以  
テ著シク重傷ヲ受ケテ其ノ死ニ報告ス  
賽馬集ニ於テ清國ハ死傷ハ百以上ナリ五萬  
ハフナクニ退却シテリ

△黒海艦隊ハ再ビ土耳其ニ動キテ黒海艦隊ノ地中

悔：出つるを許さんとして：男ウフ、ウ

英國下院に於て外務省議員討論中カルク氏に  
盛、コングレの施政を攻撃し若手の議員ハ高  
り、国際會議を召集せんとして要求せり  
之、對し外務省長バリーシ、氏に説明して何た  
利未國及び土耳其に熱心：我ハ提案を審議し  
居り、と稱え、且も其他の列國に至りて、未  
だ何等の行動、出がらざるを言ふ、と云り

△ 英國皇室侍醫カア、フシカリッキ、トレーガス  
氏、醫學雜誌、壽書、日本野戦衛生隊の設備

と賞讃し各部共、巧みなる新工夫を以て誇り  
居り、と云り

△ 英國の専門家の今日日本軍が從來に塞攻用の  
隊用なられたる英國運動の法と戦術、実施  
は、恰好なる場合と云はるゝと認め居り

六月十一日

英國赤十字社、英國痲傷兵の存り、二千磅の  
救護費を寄附せり



ロイヤル・アームズ通信員の報むる所、據るに黒木  
將軍の兵力を以て前進と称するを確言せ  
夜軍の兵報を以て敵の兵数の優大なるに依  
り退却したることと承諾せり

美仙多國の土耳其政府に對し近來土耳其國境  
騎兵がサツサハお、於てアノメニア人を苦し  
めたるに對し強硬なる抗議を提せり

美國の米を以て戦時禁制品自中、加へたる夜  
國の宣言に對し抗議せり

西藏人のキヤンワエに於けるシーク、カール  
カ兵の示威に反響を試み撃退するを増進軍  
の強ど全部はチエチビに達せり

六月十二日

昨年のバルマ賞杯(射撃会)を得たる米國人  
の政府の銃と同様にうらぶる特種の銃を使用し  
以て規則を破りたるも力なくしを以て抗議を  
惹起し其結果として米國々民銃協会の実行委  
員は賞杯を英國に還附せしめんと断定す

六月十三日

△ク口バトキン將軍、遼陽を引揚り奉天に退却  
せんとなりて將軍、陸軍運動の最上指揮権  
を授けり小隨て旅順口を救援せんとなり計  
畫ハ廢棄せり小隨の説き

△聖彼得堡にて、旅順口の降参欠乏したる可き  
を憂ひ居り  
右は同地より報道、依れハ更ニ二箇軍を編  
制せり余令下り其一箇軍ハ各三箇軍團を  
以て組織せりとのなりと

陸軍の遼陽引揚り  
旅順救援計畫廢  
止

七箇軍の大軍編制

日本公債の騰貴

△日本公債ハ本は四分一磅方騰貴したる

我軍の進軍批評

馬木將軍の部隊ハ廣大なる前衛を張りて遼陽  
奉天に向ふ進軍は其進軍ハ奥將軍の旅順口  
攻撃の追々近づくものと精密、時刻を同じり  
と批評家ハ思惟す

幽靈的艦隊

在聖彼得堡スタンカード新聞通信員が報道  
す處、依れハスクリド口ヲ援けハ電報して瀋  
陽艦隊ハ去る七日旅順口を封じ距る三十哩の處  
於て日本艦隊と会戦したるが旅順口艦隊一隻

だこ出現せぶくしを以て退却し十日浦塩に歸  
航したりと言一りと

△ タイムスの一記者、露國財政の現況を詳論し  
て一般に露國財源の無盡藏なるもの如く信ぜ  
らるゝたることあり、海軍を辯じ露國の重なる財源  
ハ唯仙獨資布衣の囊中ニ在るのみと結語したり

△ モーニングポストは日本に日本の勃興に伴ふべ  
き第一の結果に露國政府を以て其太平洋に於  
ける軍界上の現狀を憂更せしむるに在りとし  
之が爲露國の莫大の費用を投じて日本に國を

する智識を増進せむるべからば又露國各地の  
大中学に於てハ日本語及び日本歴史の講師教  
授を設くべしと懇望せり

タンガールよりタイムスに達したる報道に依  
ればモロツコ國中を通過して國王を廢せんとす  
る組織強固なる陰謀あり、宗教家並に教育ある  
社会之を主唱し政府部内の人亦之を扶く左り  
革命ハ美仙協商に先き計畫成りたる可恨處あり  
締結ハ國王を仙國に賣りたるものなりと  
て批難せらるゝが爲り益々革命の氣勢を助成  
せりと

定、隊備兵の召集

旅順敵將の負傷

山砲隊の夜逃

六月十四日

○ 聖彼得堡：於て夜表せしむる所、隊備兵ハ六十四箇軍區の隊備兵召集せしむるなり

△ スラフセル將軍ハ旅順口附近、於て負傷、片足を切斷し、たゞの誤り

○ 山砲隊四箇隊セバ、ストルル、たゞの夜逃せしむるなり

日本海軍の行動

日本海軍の行動

旅順の戦況

六月十五日

紐育よりハ電報ニ、たゞの海軍艦プロテクトル號秘蔵ニ日本、意欲せん目下二名の米國教官と共に、那威國汽船ニ、同國ニ送遣中なり

黒木將軍の司令部ニ附随するロイヤル通信員ハ、釜山ニ於て發したる電報ニ據ルハ、現今進行中ニ了る戦争ハ、唯前衛衝突ニ止まり、之ニ日本勝利ニ獲存し、と

旅順ハ勅令を以て、旅順各地方十一箇箇區の隊

備兵を召集せし

美国と威海衛

美国下院：於て議負ルマン氏、贊同を産し  
て曰く威海衛の租借ハ日本兵の旅順口を占領  
せんと同時に、終滅を予知如何と外務次官ハ  
レシ氏之：答へて曰く千八百九十八年の條約  
：依り美国の威海衛租借權ハ露國の旅順口を  
占領せし限り継続せしものなりと

アリンの黒死病

アリンは黒死病流行地と認定されたり

日本軍の北進

クロバトキン、カケガイフチ、スタツケルベ

ルグ等諸將軍より報告既彼得堡に達せし此  
等の報告ハ皆アダムス港の北方：於て激戦あ  
りたりとの報を確言す即ち日本軍の関東半島  
より北方に向ひ總進軍を初りたるを示せしり  
なるなり

スタツケルベルグ將軍ハ六月十四日の戦況を  
報じ日本兵ハ教回瓦房店南方の陣地：向ひ懸  
撃を加へたるを云ふ而し夜軍の具陣地を保持  
し得たるを主張す然れども其損害ハ多大なり  
しを承認し聯隊長戦死しゲルングロフス將軍  
負傷したると稱す

△ 日本師團（復故）岫巖を占めて海城に向ける  
行進し居りしとの説あり大戦の機迫り居りし  
ウロバトキレ将軍の報告を了る所は據小川曰く  
日本の二箇師團兵太沙河平原に沿ひ廣瀨を  
前面を以てアカムス港より北方に行進しラン  
カン高地を占領し丸房店南四哩に於てス  
タツケルべんがの縦隊と交戦せり敵軍は傷つ  
て大損害を負ひ第一聯隊長及び同副官戦死し  
ケルンカワフス将軍負傷し去りと

△ ポーンチツク艦隊は其試運轉を行は居り

六月十六日

汽船ゼ子ランスロリーカム號事う婦人小児よ  
り成り一千名を横遠遊隊と搭載し  
て紐育港へルゲートに於て焼失せり火頗る急  
なりし可居り端艇七之を卸充て違ちらば船體  
は曳船して逐て之を擱沙せりたりし五百名  
は存りて死せり

オツタワ軍法會議ハ重大なる不謹慎、不柔順  
の罪を以てドナルド少将と免官せらる由と  
宣言し斯の如き官階にある將校不遺憾に小斯

の如く立憲政府の原則を解する能はずりしと  
惜し

紐育：於て焼失したる汽船スロークラム號内：  
一千六百の人あり内屍體の發見せし者あり  
四百四十七ありし千名に死亡若くは行方不  
明なり火にコヅク部屋より出でしものにて甲  
板に燃え廣がりたる房より甲板陥落して教員  
人を恐ろしき火窟竈の中：墜落せし者たるが下  
なる火に既：婦人、小供を焼きて絶息せし海  
中：飛入りたるもの數百名ありし溺死した  
り船：半時間にて水際まで燒失した

△ スクリッドロフの大膽なる所業、賞讃の價あり  
然れども實に失望の餘り出でたる戦畧：過  
おぼと認りうる當地に於ては、露國艦隊が今回  
の如き侵掠を試みんとし、東部司令長官の十  
分豫期したる所にて露國艦隊が後令如何の  
ることとを慮るも其運命に既：定まりしと解説  
せらる

△ 露國少将キシル大公の明言にて曰く日本軍が  
満州に止まる間、露國は之と戦ふ處に幾何  
ても敢て派兵をへし露國は日本に屈從を

クロバトキンの戦況  
五頁上

ふくと能く

京都度ロイテル電報：依ルハ有房店の新設：  
要シクロバトキン大将より夜間皇帝、上奏せ  
る報告の要領左の如し

戦闘ハ六月十四日早朝より開始せしむるなり  
午前六時半頃スタケルベルグ将軍ハ日本軍  
の右翼：追ひつゝ午前十時：至リ日本軍ハ夜  
間騎兵の教部隊を撃退せる、依リスタケル  
ベルグ将軍ハ日本軍の行動を防止せんが爲  
り豫備隊を前進せしむるなり六月十五日夜軍  
：移シロクゲアストンノウ大佐戦死せり

傷  
護  
方  
面  
敵  
死

クロス少将負傷将校の死傷約廿名下士卒の  
死傷三百十一名なり  
夜来より池の電報：イムバスタケルベルグ将  
軍、有房店に於て退却を絶たず敗北せしと云  
ふ

六月十七日

○十四日有房店附近の戦況：於て夜軍の死傷ハ  
将校二十三名士卒三百十一名に於て十五日の  
戦況：就てハ未詳  
敵の兵力ハ三萬五千にして内騎兵六千なりと



敵軍退路遮断  
敵將負傷の証

△ 岫巖より進軍しつゝ、ある一挺隊の外更に有力  
なる日本軍隊並に附近に上陸したる為ツスリ  
ケルベルゲ將軍に驍訟を斬たれし負傷したる  
との風説を彼得僅に行はる

各軍恩給の暗殺

△ フインランド總督がブリコフ將軍に暗殺せら  
れたり兇徒は自殺したる

紐育時事後報

其節の調査ハ汽船スロークラム内の死者が弱千  
名なりしと示す

各軍恩給拒絶者

フインランド總督がブリコフ將軍元老院に入  
らんとする際拒絶を受け重傷を負へり兇徒ハ  
元老院議員シエーマンの子なるヘルシガフオ  
ーハスとフスルカ、直に自殺と遂げたり彼  
ハホフリコフ總督の施政の濫制に抗せんを爲  
めフインランド内到處の大会に出席したる  
レカなり

アーメニアの騒乱

コンスタンチノールブルの報道に依れば四  
月二十五日以來アーメニア人の殺つた者  
の三千村落の境をたるとり五十なりとあり

其後の電報に依り小分スタケルべルが將軍に去  
る十六日朝丸房底の戦況を叙述して六月十日  
日優勢なり日本軍彼の右翼に轉回し來り彼を  
一して三誌に依りし北方に退却せしつ餘儀なき  
に至りしりちり損傷甚大なり日本軍の砲  
火に露軍の砲台二箇を全然掃滅し來り尚ほ露  
軍の大砲十六門の内十三門に破壊せし小し廢  
棄せしんたりと曰へり

兎徒の房々の重傷を被りたるフインランド總  
督ボブリコフ將軍は、命に死せり

陸軍改革に及り英國内閣は、大議論ありと理  
解せらる

ハンブルヒに滑りたるゴードン・ベネツト  
(紐育ヘラルド持主)の自動車競争に仙人ヲ  
リ一第一着、獨逸人エ十チ一第二着を合し美  
人は先着者の中に入らざり幸に負傷したる  
この一人も無く会衆は非常の多数にして皇帝  
皇后も皇族も臨場したり

露國新聞紙の日本に對する畏れし世辭ハ  
辯駁を要するまじき重大なるもの有るを見る

而して英園の公報、不善用にして支離滅裂を極  
め居り、英園の識者も一も之を信ぜざるなり  
△南進露國の敗走、ウロバトキン隊軍の無能と  
證するものと認めらるる日本運送船の損失、対  
して一殺、執れし吊悔の意を表す、但し之を  
戦争の大局に影響する所は極つて微少なりと  
信せらる

六月十八日

△ 船波得堡の軍人社会に於ては、スタツケルベル

ウの損害を以て捕虜を合せ優に一萬に達せし  
爲り、其右翼隊は悉く全滅に至りたるなり  
△ ウロバトキン隊軍の次の水曜日（十二日）を  
以て出度し、敗残軍隊を司令せんとする説あり  
クラスゴ一汽船カーケール號日本に賣渡す  
ルなり

北京に勅伊國公使加里ニア氏船波得堡に勤

轉トバロリー氏其後任とならん

夜園ワルソー總督ヘルトエフフ氏ハ腦溢血ニ罹らん

カリーリーニエースの報わす所ニ據ルハ各蘭總督ボドリコツフの加害者ハ専ら上流社会より成る瑞典党の一員たりしと云ふ

六月二十日

ロイヤル通信員ナルボルン産の電報ニ依ルハ

夜園ワルソー總督

各蘭總督の加害者

ロイヤル通信員

ロイヤル

ロイヤル会社汽船オースワラリア號同國港頭ニ向テ入航中子ロアン岬南附近ニ於テ岩礁ニ衝突セリ到底救ふべからざる所歟一但し乗客船員ハ皆無事上陸したると云ふ

巴里マタシ新聞の發表せる聖彼得堡電報ニ曰くヘルシングフォースに容易ならずたる擾攘あり暴徒ハ警察署及ハ總督府を囲み十八名の官吏を殺害せりと

英國船隊サーチニアコルシカ兩嶋の間ニ於て夜間漁習中駆逐艇ハフト衝突ニ依りて沈没

各蘭の郵船

又英國巡洋艦の遭難

南阿行清國勞働者

せり但し船隻ハ救助せんを云ふ  
汽船ワキードラール號清國勞働者を載せしガ  
ーバン(十タル)ニ着せし何れも意氣治波内  
三名のべりべり病ニて死去したるものありの  
み禹餘ハ壯健なり

得利寺敗兵の擁護

△ 聖彼得堡よりハの報通ニ依ルハクロンドン  
コ得軍の指揮せる第三師團ハスタケンベング  
得軍の退却を掩護しつ、ちりと

美國のラハ廿進軍

△ 美國ハ西藏ニ對し最後通牒を發しし  
二十五日ヨシ、駐藏清國大臣と共に適當なる  
談判者を見出さる、非ざるハ遠征隊ハラハ廿府  
ニ進發を可しと通告せり

新任軍港司令官

△ ダグラス提督ホーワマス軍港司令長官と爲れ

浦島船隊指揮官

△ ベゾブラフ提督ハ日本海を警備したる浦島  
船隊を指揮せり

浦島船隊指揮官  
(前報)

△ 聖彼得堡よりハイラハ電報会社ニ達したる報  
通ニ依ルハ日本海ニ出撃したる浦島船隊の指

(下はバン)

美国駆逐艦の衝突  
(後報)

揮官はベッグラップ提督に、このスクリーンドロフ  
提督の浦場は、殊に居るといふ。

地中海、於ける夜間演習中衝突して沈没した  
りと報せられたる美国駆逐艦バフト號は、駆逐  
艦スタワケ號と衝突したるに、この二艦は、  
共に損傷を受け、モールタに到着した。

メムボルに於て坐礁したるピルオム社  
汽船オースワリア號は、全速力を以て航走中  
坐礁したるに、この二艦は、其衝突力に恐る可き  
のなりし併し船体は、浮揚起らざりし。

波河汽船の衝突  
(後報)

新任海軍上卿

ポーフマス軍港司令長官提督サー・ヒヨーン  
ワイフシヤール海軍上卿に任せられたる。

浦島敵艦の目的

浦島艦隊の今回の行動は、固してタイマスは論  
じて曰く、思ふに、是れ我が國の石炭船と太平洋中  
の一無人島に派遣したる居右艦隊の同洋に向  
つて進軍んとせられたるなりといふ。

六月二十一日

浦島敵艦の衝突  
(後報)

長官の運送船三隻撃沈の詳報は、接せり。スクリー

旅順の敵の聲

ド口フは電報中附加して曰く十六日艦隊は北  
海道より南に趣く途中美園石炭船アラント  
を捕獲し浦港の審検所に送らるると

十四日アドミラル、フイフトケルトの報告に  
よるに旅順の艦隊は全部修繕を了らるとし  
キレーフより電報ありたり

海城附近の戦報

△ 遼陽より聖彼得堡に達したる報通に依れば昨  
日海城附近に於て戦闘あり陸軍の損害は五千  
に上り退却せしむるの已むなきに至りたりと云ふ

西藏首府：但澤

西藏遠征隊は来る二十七日ラハサ府に向ひ出  
發す

出稼支那人の脚

汽船ワウイードラーは號、格好してナタルの  
一パンに到着したる清國出稼人中四十名の脚  
氣患者あり

英軍の實業家

英國の實業家シークイア氏は千九百二年の破  
産に關して偽証罪を犯したりと故を以て拘  
引せらるなり

新任護國長官

大尉サードナルド スケエーパート東部阿

議院減額案

弗利加保護團の税同長兼軍隊總指揮官に任ぜ  
らる

英國下院、百六十五票に對する二百十七票を  
以て茶税を六斤に減額する議案を否決した

六月二十二日

六月二十一日シカゴに催されたリバブリカ  
ン党全國大会に於てルーズヴェルト氏を大統領  
に推挙するの件に對して、確定し上院議決す  
るに、エーアバンクス氏を副大統領に推挙するの件に對

米國大統領  
選會

は決意しなく之を存する異常に思ふ所あり  
更に生ぜざらん

露帝、皇后、諸大公等故芬蘭總督おブリコフ  
ノ氏の葬儀に會せり

芬蘭總督葬儀

スタウケルベルグの報告に據れば日本軍は瓦  
房溝以南に進まず其前面を瓦房溝復お間延  
長し居ると云ふ

敗將の報告

ロイヤル牛莊通信員の報に據れば日本濟兵士  
曜日(十八日)夕刻に至りて遼陽を攻撃した

遼陽陥落風説



英國の茶税問題

リとの説あり高は同地宣教師の士人より得たる情報に戦闘ハ月曜日（廿日）に継続し遼陽を六月二十一日を以て占領せしむるなりと云ふ

英國下院に於て議負ソーターズ（自由党）氏茶税に關する修正案を提出し八片税の千九百五年八月一日より施行するべしとあり七月一日に改め茶税を従價税とするの議に同意したるも此の修正案ハ百二十八票に對する百九十四票を以て反對せしむるなり

然るに尋常茶飯のみ

改蘭地方の豫備召集

日本軍の俘虜優遇

△ 英國陸軍大臣サハロフ將軍に得利寺の戦年を以て日本軍に取リ軍界上重要なる者：非むと公言せり

△ フルソウ區の豫備士官の現役に召集せらる

△ 當地諸新聞紙の戦事通信負ハ執れし日本軍の敵軍に對する優遇厚待を賞讃し負傷兵敗兵が斯の如き同情ある保護と私心なき情愛とを以て待遇せしむるには従来未だ曾て見ざる所なりとの通信を送り來り

△ 聖彼得堡より報：據ルハ海城：於ける二日  
間の激戦に依りて露兵ハ下士卒五千將後百六  
十八名を失一りと云ふ

△ 関東軍島及大石橋：戦闘進行中なりとの風  
説あり

六月二十五日

シカゴに在るリパブリカン党国民大会  
の開会：當り會長ルート氏ハ現政府の成績を  
列挙し其モンロー主義を鞏固せしむること其陸

海軍を擴張したること等を述べ國税則ハ到  
底保護主義に依りて之を改正せざるべからざ  
るを云へり其ルーズヴェルト氏の功績を教へ  
たる時ハ頗る会衆の喝采を博せり

右ルーズヴェルト氏ハ其演説の終：臨み述べし曰く  
清國の關係破裂して世界の戦争となるに至る  
を防止する爲め絶東に於ける戦地を局限する  
こと：於て米國の至勸せんことを求めたるも  
のハ即ち獨逸皇帝ハ是を以て二月九日列  
國に通牒を發するに至りたるなりと

米國大統領ルーズヴェルト氏ハ其タンカー

一二兩軍の聯絡  
行動

在勤領事：訓令して擧去されたる米國人ハ一  
ガカリスを生ヨナガリ還付せらる可但しハ之を  
擧去したるレリガリを殺して引渡せらるニ若  
その一を取るべきをモ以テコ國政府：要求セ  
しめたり

コイテハ通信負の長軍司令部より電報せらる所  
ニ據ルハ北方の形勢ハ日重良となる：至ル  
二箇の日本軍ハ遼東湾の北岸ニ上陸したる軍  
隊ハ援助を受け時々互ニ其聯絡を通せんとな  
るの形状を示せと云へり

救世軍の遷移

美國皇帝はバツキンガム宮：於て救世軍の總  
指揮官ブリス將軍：謁見を賜へり

六月二十四日

米國大統領選會

リバフリカン党の國民大会はルノーグエント  
氏を次期大統領の候補者：指名せり

美國皇帝の出行

美國皇帝：ハムプドヒに市出遊 せらる

遼陽臨城の誤用

遼陽臨城の報は聖彼得堡：於て取消せらる

英國皇帝の所誕辰：ちりたる諸氏、セントマ  
イケル、セントジョーシカ、コルマンダーに叙  
せらる

韓国在勤英國公使 ジョーダン

清國幫辦稅務司 プレドン

マレー聯邦英國駐在官長 トリーヤ

又左の諸氏等、同勲章のコムバニオンに叙せ  
らる

マレー鐵道理事長 スプーナー

香港上海銀行北京支配人ヒワリー

前在東京英國  
公使館附武官  
ワルバーグ

暹羅彼得堡りの報通：ふんが暹羅の南方：於  
て大戦争正：進行中：一し日本軍、二方面よ  
り攻撃し、漸次クロバトキン將軍の部隊と北  
方：撃退しつ、ちりと云ふ

△ 英國皇帝エドワード陛下、獨逸皇帝：合見せ  
人の房々キーンに向ひ航海中なり、来る二十  
日同地：於て觀艦式と行ふ事なり

△ 且合利附日本公債本日半磅方騰貴しなり

英皇皇帝、キーンの競選会に臨む為り出發せ  
らるなり

米國レバブリカン党の大統領豫選会、副大統  
領としてフェアバンクス氏を指名したり

マレイ殖民官吏へア氏はコムバエオンにア  
フレワト、ハームウオース氏へデリーリメー  
ルカ重なる持主、一は從男爵封、叙せらるなり

肥後得保より、の報道に、依れハ、ウロバトキン將  
軍、其側面黒木軍、暴發せし居ると以て、曰

本軍の蓋平に、進みんとするを強て抗止せむ  
る海城、其兵を集中せしる策を採り、つ、ち  
との意味を有する電報、高國陸軍省に達し、  
是れ併せし牛莊營口の撤退、をも意味するなり  
なり

保守党負、統一党負の懈怠に對し、劇しく苦情  
を唱へ、統一党負の態度、一して改まること  
をなくん、政府、其地位に就て考慮する所な  
らる可うらむと曰へり

六月二十五日

△ 米國に於ては一般に黒鳩公を以て畏れ其作  
戦計畫を諺り極りし常事なる點に於て其將校  
の技倆及び兵備の故に日本軍に及ばざりし  
のとならぬ<sup>之</sup>所<sup>を</sup>彼ら今に至りて身を此の難  
地より脱せんこと難うと心く退却の決心の如  
き既に<sup>之</sup>を<sup>之</sup>と認めらる

下院議員カー ジョーン レンゲは總理大臣ハ  
ルフォード氏に對し増税に對する批難及び選  
挙區の到了處に引續きたる政府反對の聲音  
を盾を不故に總理大臣の具陳する所の政策を不

して國民の判断に供することとせざる可きや  
否やを質問し可しとの報告を爲したり之に對  
しハルフォード氏は書面を以て答へて曰く政  
府が下院の信任を失へると證明を以て是を可  
き失政を取らざるは議院政治を都合能く  
行ふに必要なる常法の贊助を得ること能はざ  
るに至るに非ざる限り彼ら贊同者の指示した  
る如き方針を取ること無し併し苟も右に言ふ  
不始き場合の際を以て若しハ氏其責を引く  
こととを盾を以て言へり

六月二十六日

日本公債の暴騰

△ 日如公債の暴騰、旅順口の閉塞の報道の結果、昨日一磅方騰貴せり

露國軍人の法標

△ 聖彼得堡より報に據れば曰く参謀本部の力に依りて地方に布告して將校等滿洲への其出發を遅延せしめ、依りて之に對する嚴重なる處置目下計案中なりと云へり

英獨兩帝會合の仲裁

△ 英獨兩帝會合の結果文戦國同の仲裁を容るの議大に進展せんとは大陸諸國に於て抱懐せし豫期なり

コロンビアに於ては滿洲鐵道を露國に於て所有せしむるに日本異議を拂せざるべしと豫想せし、固き露國の現下の態度を執る間、外同の仲裁到底困難なるべしと承認せ

旅中の英團の暴行

△ 美國皇帝の文報（廿八日）を以てハムブルに赴けり

老婦の浦塔撤去

聖彼得堡より曰くテハ電報会社は遠くたる電報の停止を婦人の見老人の浦塔を引揚ぐ可き旨の命を受けたりと云ふ

美国皇帝を載せたるヨフトグイクトリア  
ルベルト號ハ巡洋艦四隻一駆逐艦若干と共に  
去る廿五日ボール4ツク運河を通行し海兵一  
中隊河の右岸にありし之を護衛しクラツク隊  
隊の護衛兵はアスラム子に整列し之を  
待ち受けたり同地に於し獨逸皇帝ハ百官有司  
と共に美国皇帝と歓迎し夕キーンに於て晚餐  
會あり獨逸皇帝ハ美国皇帝が平和保衛の方針  
に對し努力せよと云及し獨逸皇帝ハ美帝の  
尽力に對し上帝が加助あらんと云と請へり美  
國皇帝ハ之に答へて彼が彼を救ふと云し  
平和維持に努力せよと云對し獨逸皇帝ハ言及せよと云

ありたるに深く感むる所あり且つ獨逸が同  
様の目的を掲せらるしに確に幸なり兩國の國  
旗ハ平和維持及び萬國の幸福の爲め永久に互  
に味方となりて翻り可しと曰へり

六月二十七日

○ 復讐の議論ハ今度の旅順口の戦敗に就し神勝  
激怒せり復讐軍海軍將官ハ訪客に對し敗戦無  
力の復讐艦隊ハ更に戦ふも最早成功の見込と  
有せざることを明白なり  
アレキこーフ總督ハ旅順艦隊が今度の行動を



烈しく非難し同艦隊を一旦港外へ出下せしむ  
るに旅順を離れざるし理由を以て解せべし  
ずと存せし

△ 英國：二十一日日本海軍の勇敢熟練及び判断不能  
く今回も勝利を博し得たことと船認め居り

△

海軍の戦闘、固もる報道に聖彼得堡に於て秘  
し之を発表せしむを僅に東郷司令長官の報  
告中より断片を得しのみ

英國の新す紙に日本：其克榮ある勝利を祝賀  
し居り

六月二十八日

在遼陽義軍司令部のルータに社負の報して曰  
く黒木及び奥の聯合軍に今や最近の戦に無り  
たる兵数の少くも三倍に上れるケバトキン  
の戦備既成、大軍と討峙せし而して雨期既  
近づきたるに一大戦に此際到底避け得らば  
ずと想ふに遼陽より彼得堡に達したる他  
の電報に、奥軍に退却中にあるとあり、此く黒  
木軍と聯絡を通知するの計畫を棄てたりとあり

六月二十九日

英皇エドワードはハムブールに來り歓迎人及  
C同地の上院議員：謁見を賜ひ來觀の群集  
熱心：之を觀迎せし

馬嶋公より之の公報：日本軍は六月二十六日摩  
天峯分水峯の山路を占領し退却露軍と追撃せし

明治三十七年七月分

路透電報集

附倫敦特電

六月二十九日

下院に於ける陸軍編案の討議に際し陸軍大臣  
 プーノルド フォースター氏に演説しし兵士  
 の召募に應ずる力の減少したりといふに吾等  
 せり而も兵士の就役年限を延長する能はざる  
 より生ずる困難が重大なる言説に絶大なる  
 して印度に於ける年限の延長に充分の實行を  
 見陸軍の困難も劇烈なるに陸軍の救済策は  
 現時の制度に代るに英帝國の狀態に今一層  
 適度なる制度を以てするにせんと曰ふあり

陸軍改革の甚だ複雑なるものなりと殊に印  
度問題に於て然ること甚だ切言し然れども改革  
案も不可能のことなりと云うは只此問題に非常  
に重大なるを以て根柢的は且つ至急に解決せ  
ざる可らざるなりと云ふ議負議尤不鮮なり政府  
對し催促をせしむるに無きやんとして望み  
總理大臣ハルフォード氏ハ困難ハ細目の困難  
なりと述べ陸軍大臣可遠らざる其報告を爲し  
を得べきを期望せり

遼陽より長都に達したる軍官的電報に依れば  
クハバトキン將軍ハ軍令を度し戦死を以ては

捕獲せしむたる日本兵を取扱ふに當りて敵  
に相當する敬意を以て且つ負傷者を助けし可  
き方戒飭せしむるは左の電報を度したる露人の  
電報に附言して曰く此命令に疑はれなく日本  
病院に於て露國負傷兵に對し鄭重なる取扱を  
與へらるるの應報なる可しと

聖彼得堡よりハルフォードに三十二名の人  
日陸軍艦隊ハルフォードに搭乗したるが同艦の  
普通搭載力ハ十名なりを以て是れハ艦ハ試運  
轉に先ず沈没を招き大尉一名其外二十名の溺  
死者を出せり但し艦は救助せしむる可しと云ふ

六月三十日

マクドナルド大佐は六月廿八日と以て西藏の砲台を略せんとするの行動之初に激戦あり敵の損害甚大なりクラスター大尉戦死し英國将校二名即座折れし名負傷あり

タイムス巴里通信員の報する所ニ據るに曰く英國のおしん々々艦隊を具絶東に走る途上ニ於て仙國港灣に其石炭の供給を受くるの許容を得んとしとを求り出でたりとの風説あり此

事ハ中立を破毀せしことかくし行はるべしと宣言せしこと

英國香港總督マツシエー十サン氏香港に向  
け出發せり

クロフトキハ移軍ハ電報しし曰く分水峯を占領したる日有兵ハ二十七箇大隊より成りしと而して移軍ハ英國を脅かし大損害を受けたることを承認せり

クロフトキハ移軍ハ電報しし曰く分水峯を占領したる日有兵ハ二十七箇大隊より成りしと而して移軍ハ英國を脅かし大損害を受けたることを承認せり

露國潜水艇奇変

次で火災を生ず同兵器局の化学試験所等其一部分を以て破壊せり原因ハ何れなるの隠匿ニ出でたるもの、以て

露國潜水艇テイルフィン號子少ア河ニ於て沈没せり乗員二十四名多の潜水水中の事変ニ依りて溺死せり

日本の自製力

日本人の其勝利及び其災厄ニ對する自主自製力に政府の尊敬を博せり

露國の対俄要求

露國ハ仏國ニホリルテツリ艦隊東航途上同國

領地の濫濫ニ於て石炭の供給を得んことを申入ルを以て之の報せり

日本戦界の詳

倫敦タリムスに日本軍の普魯西的ホーアの混同したる作戦計畫の特ニ露國陸軍の均勢を破壊するに適せりとのなりとを論評せり

七月一日

露帝職工と石

露帝ハ下レキレフ太公及び海軍大臣と伴ハノロンスタフトに於て絶東に赴く心ヲ軍艦と採掘し職工ニ對してハ愛國の義務とし一合

同も速かに準備を終了すべし旨強説し貯金の割増を居るを報告す小なり

△ 露國の遊軍記者の報告に 岫巖海城街道上に之れ廿六七の砲台同激戦あり日本の砲兵の優勢ありとあり又ハ露國の旅團に 恐るべき位置に退却と餘儀ありとあり

既往四合一年度の歳入ハ三千百七十二萬二千八百六十九磅ハ比し前年度に比し二百六十八萬八千四十四磅の減少なり

佛遊條約附帶議定書巴里に於て調印されたり同議定書はクラート港を以て即時仙國に割讓せしむるを締約す

羅馬に於て東京在勤伊國公使メレカリ氏聖彼得堡在勤伊國大使ニ任じられ小基其哥代理公使ガインチ伯メレカリ氏の後任ニ奉けられたり

△ 日本政府は美國に於て蓄集し居る外債の収入金を以て直ちに美國大藏證券の買入に使用し

たりとハ大に一般の好評を博せり



○日本軍が負傷兵と残害したりとの非難に對  
して日本の拒絶に全然改竄に於て承認せらる

佛國はタンゲールの警官として佛國の捕獲と  
共にアルゼンチアの兵若干を雇入ルんとせし  
口つくと協定しつゝあり

露國の公報に日本軍が去る二十六日旅順口の  
東方十四哩なる小平嶋背後の高地を先づ占領  
し次は旅順口の東方八哩なる龍王洞を占領し  
目下龍王洞に於て強大なる砲台を築造しつゝ

ありしと

露國の砲船水雷艦若干隻は旅順口より出奔り  
て露軍と接しをりしと  
強大なる日本の艦隊若干隻は旅順口の西方  
本通に泊りて進軍しつゝありしとを示す

七月二日

露國駐在露國領事より公電にアドミラル  
ブルコフ(駆逐艦の名)が同地に到着したる  
を報じ且つ附言して六月二十三日の海戦に關  
する東瀛大将の報告に捏造ありし露國軍艦ハ

月て無子堅固なりと言ひ奉天よりフルーが将  
軍も同様の電報を發せし

七月三日

敵軍退却の事

△タロバトキン將軍は日本軍が遼陽の東方三十  
五里なりアオホリンと進軍したるを報告  
せし而して將軍の退却線は之を居り閉塞せ  
しと云ふとの説あり

敵軍退却の事

△巴里より報道、依小バクバトキン將軍は  
大石橋より露軍の退却を云ふと箱止したりと

不

西藏の休戦

△美国遠征隊は西藏に休戦を許せし恐らく満足  
なる妥協を得るに至らん

日軍退却の事

△クハバトキン將軍は報告して曰く日本軍が熱  
岳城より進軍せるものを除くの外到る處進軍  
を中止し大石橋方面並に鳳凰城以北の地方よ  
り東方に向ひ退却しつゝありと

遼陽攻勢と取

△遼陽より敵彼得堡の諸新報に達したる電報に  
依れば露軍は攻勢を取り再び大峯の嶺を

台領一をうと云ふ

西藏の商議開始

西藏人の英米遠征隊と商議を開始し、

七月四日

美艦の牛莊行

△ 美艦軍艦スピエーケル 號牛莊に歸航をせしむ  
命せらる

露國の捷報

△ 巴里條約の日本公使館に露國の野蠻に海  
牙條約の規定を遵守せしむと鳴らせる公文を發  
せしむ

露國の捷報

△ 露國大將を奪還したるの報は有力に打撃さ  
す

伊國公使の交代

△ 東京在勤伊國公使メシカリ氏聖彼得堡在勤  
に轉任し墨其哥在勤公使がインケ治東京在勤  
を命せらる

漁業保護と日  
英の交渉

△ ベーリング海峡の漁業保護に因付する英露の協  
商に就き種々の憶測説をいひし畢竟重要視せ  
る、是らむ本問題に正當の解決を下すに關係  
列國共同の上の事たるべく日本政府が之に與

リロフ之を承認せんと必要とせざるを疑ふべからむ

丁林國汽船ノルゲ號七百マスカンガ子ガイア  
移住民及び八十名の乗組を搭載してコーペン  
ハーゲンより紐育に向け航行中六月十九日へ  
ブライト列嶋一スコフトランドの西二百里に  
於てロツカル礁に坐し僅に二十七名のみ助命  
されたりノルゲ號ハ急速浸水し八隻の端艇卸  
されたり内三隻ハ引卸し中ニ破壊し爾餘ハ  
乗負多くして沈没し二隻のみ港に去るを得たり  
も海上風波頗る荒く遂に此等助命者ハ沈

船オーラー號ニシカリクスビーに送致せし  
を得たり

七月五日

ヤンゲハスバント大佐ハギヤンフエに於て西  
藏の傭和番負ニ接見し大曜日限り西藏兵の砲  
臺より撤去を心すことを固守せり番負ニ之ニ  
答へて同問題に熟慮を心すと云へり

ノルゲ號生存者 百二名更ニ上陸したるもの  
あり

外務次官パーシー氏、下院に於て美国軍艦工  
スビーエーガル號牛庄に向け出度と命ぜりふた  
りと云へり

露人の極東戦地に發送せんが爲り黒海波羅的  
海各要塞の重砲を取下しつゝ、ちり日本砲  
の数量に於ても品質に於ても露國に勝れり  
みたり之を操縦するの巧なる點に至りて  
到底露人の企て及ぶ所を非れと認めらる

七月四日

露國第一軍の動向を左ることゝ、勅令の發布  
にきり金に確りたるなり

七月六日

ウロバトキン将軍は六月十七日、於て各兵種  
通して十二萬に満たざる兵を有したるに、過か  
かすも其後着々増兵す小居れり、以て遼陽海  
城に於ける兵備は充分安全なるべし

露軍は退軍せし外國武官の電報に、降雨の時期  
となるに、より以後多分戦闘なかりしと望むを得

貝加爾鐵道運  
轉現況

僅ニ一週一ウ

△ モーニングポスト通信員、奉天より十七日  
： 貝加爾鐵道（貝加爾湖以東の線路）は完全ニ断りつゝ、毎日平均列車八名を運び居り

西藏の安撫不成

英國遠征隊と西藏人との抗敵行動ハ七月五日  
ヤンフエに於て再び開始せしむ

日英露と臘虎油

ベリリング海峡の臘虎油保護ニ関在る英露兩國間の協定ハ日本全然之を可賛せず

露國吏の動向

露帝ハ勅を度して飛彼得堡、モスコ、カザン  
キーエフ等の軍區ニ属する大部隊の豫備兵を  
吏ニ召集せし

露艦と膠州湾

ケルニソレエツアイツングの報を了所：依  
ルバ露國艦隊若し膠州湾に避難せば獨逸ハ嚴  
重ニ公法上の中立並ニ其義務を格守せし可  
云ふ

摩天峯の戦況

露都發報ニ據ルバ露國の公報ハ摩天峯戦闘  
の始末を報して曰く露軍ハ突貫を以て日本

軍の前衛を破り次で日本軍の援兵を得た。不  
慮に退却したり。露軍は將校九名、兵二百名以  
上を失へりと云ひ。高は其後の電報に依りハ  
ハ口ヲ將軍ハ極上より右の戦況を監視し軍隊  
の劣変を稱賛したりと云ふ。將軍の報告に依りハ  
七月三日露軍ハ日本軍と大峯の嶺ヨリ駆逐し  
たりと

仙國議會ハ四十三票ニ對する五百七十七票を  
以て二年兵役を可決し上院ハ宗教々育案を通  
過し傳信の行ふ普通教育を全然廢滅したり

サカロ口ヲ將軍の報告に依りハ七月三日露  
軍ハ日本軍と熱岳城の四哩内ニ驅逐したり  
是日敵(日本軍)ハ大嶺の嶺ニ砲臺を築造し  
つ、たりと云ふ

七月七日

遼陽よりの報道に依りハ日本軍ハ全然旅順口  
と包圍し又日本の前衛隊ハ東方より奉天街道  
ニ現はれたりと云ふ

東洲大将の巡洋艦若干隻は偵察の爲に突撃し

来りたる夜軍を鳩撃して砲撃したる

○ 西藏人は英國遠征隊に對しギヤンツエに於て  
断乎たる抵抗を興へつゝあり

英帝は本日詔勅を發して徵兵條例に從ひ兵役  
に就く可き義務を有するもの四十四萬七千三  
百二人を徵募し尙ほボールン千ツク海の諸港に  
對し十分の補充をなす爲め 歐羅巴亞西亞の海  
軍協備兵全部及びセバストポールの防備の爲  
の南部諸島の保衛兵とを召集したる

ギヤンツエよりロイヤル社に達したる通信に  
依りて英國遠征隊は猛烈なる抵抗を受けたる  
後西藏人の砲撃と攻撃とに之を耐へたるに死  
傷は多うらむがドンドン中尉並に印度にありて  
三十七名戦死したるといふ

那路昂は於て大統領協選会開會せしむるパーカ  
ー氏を大統領に、有名なる辯護士ターナー氏  
を副統領に指名せしむる議確定す

總理大臣ハルフォード氏は政府の西藏に對する  
政策は變らば遠征隊の進軍中と異し若し相



當りて權力を附帯せしむるに高議者をあせし  
何時なりし之と高議を用始て可し是國政府  
以前の宣言と相違せる條件を要求せしこと  
を蓋せざるなりと曰へり

△膠州湾と旅順艦隊の避難所たるしん  
ととの風説無根なり

七月八日

陸軍大臣ヲオリスター氏の新陸軍改革案ハ實  
際ニ於テ民衆の存立を許さばこそしん  
常兵中少あくも六千の有力なる兵員之を居  
り排斥せしむる至るべく南阿非利加守備兵は  
其五千人を減じモルル夕ジプロロント  
他の在外守備隊亦その一分を奪ひ去らるる本業  
は未だ可認せしむるに至らざるものこし  
会議委員ハ之を警愕し居り之をこ  
成せるハ困難なり本業ハ先頃内閣ニ提出せる  
て結局廢案となりたるものなりし  
行ニ困難なるものなり

七月九日

總理大臣ハルフオード氏ハ説明して曰く美國  
ハ露國及び日本ヲ請求ニ依り白令海峡業問題  
ニつき抗議申なり之不為り多分國際間ヲ紛議  
を生むる可也事ト無可るべし美國ハ日本の  
船舶ニ對シ法權ヲ行使せんト云ふニ云らる日  
本ハ亦自ら一切の密澳船ヲ廢分去べきを約セ  
りと

外人法業ハ全然廢棄ト云ふなり

△ タツフカフツフ將軍土耳其斯坦總督ニ任せら  
る

軍事會議ニ於ける美國(軍)達大臣の位置不確定  
の爲り海軍大臣と同様全權ヲ無心ニ命令出  
むたり

日本軍ハ進軍しなるといふ返却しなるといふ  
報道區々々々たる多軍人部ハ非常ニ迷ひ居り  
良國軍事通信員ハ日本軍旅順方面ニ集まり  
と稱し同時ニ又日本ハ東軍と南軍との間(東  
軍と黒木軍との中間?)ニ其主力ヲ集中せし  
と報告する者あり

大元帥隊選と全  
復布位

ブライアン氏はカモフラント党の大元帥隊選  
會と説得して意尾免く全復本位制と党の綱領  
中より削除せしむたり

英國の陸軍改革内訳

リッワルトン將軍、饗宴の席上一場の演説を  
試みて曰く將軍、新陸軍改革案に就て毫も満  
快を感じざる何とぞんば全是れ亦人亦負教と體  
格に於て是らざるものぞんばなりか何れ  
國の政府と雖も近き將來に於て強制的兵役制  
を採用せんとして居るべく遠うらむ之に就て審  
議せざる可からざるに至るべく無かる可  
と曰へり

日本軍の進軍

サカロフ將軍報告して曰く  
日本軍は七月六日熊岳城より北方に向ひ全部  
進軍し敵軍は此方の死傷を被りて退却しつゝ  
あり

日本軍は金州の東南八哩の地に在ると

七月八日

△クハルトキン將軍は更に二百名の將校を要求  
せり

敵軍の將校欠乏

長官艦隊の遠東

△ 夜間義勇艦ビーターズブルグ號、浦塩に向ふ  
昨日スエーデン通過一は一隻の義勇艦外一が  
スエーデン海峡を通過中なり

夜間更の勤負

△ 夜間ハ極東に旅けり役務の居り更に五十萬の  
兵を勤負しつゝなり

夜間更の勤負

△ 夜間巡洋艦三隻夕スエーデン海峡を出ひたり  
其中一隻ハ表面病院艦を装ひ居れども其の船  
艙ハ織巧なり病院用の物品より更ニ大なる  
軍事上の價值あり何物かを藏し居たりと信  
せらる

夜間の新艦航

△ 未開にして四隻の潜航水雷艦を夜間積出せ  
り準備成り又浦塩斯德に送りて潜航艦が  
ロケットル號クワンスタフトに到着せり

七月十一日

大統領選挙  
運動

聖路易：於て終夜激越せり知モクワフト党大  
統領選挙會より若手の候補者中より其何れを  
選出せよと付き躊躇せり如くなりしか  
に、第一回の投票に於てパーカー氏を大統領  
に、財政家にして元老院議員なりしベトガス

氏を副大統領に指名し  
パーカー氏の聖詔易の豫選會に對し電報を發  
して其自己の強硬なる金貨本位論なることを  
言ひしを爲り涕騰を惹起したる故を以て豫選  
會の貨幣制度に固執する事其綱領中より之を  
削除しブラクマン氏等を代表せる人の大反対  
を見たり斯くてパーカー氏に電報を發して大  
統領候補者の指名を容るると共に氏の意見は  
綱領中に加へざることを通せり

露國のウヰツア氏は表面通商條約の談判を爲  
せし稱して伯林に赴けり然れども其實露國公

債に付き周旋を了るるのなりと信せらる

露國新勇艦スモレンスク號は甲板上にヨビ乾  
草石炭を満載してスエズ運河を通過したる  
目下シエブールには五萬噸の石炭蓄積あり  
りと報せらる

獨逸皇帝其自己の名譽大造たる露國のウヰ  
ホルグ歩兵師隊長に電報を發して敵に會はる  
の機近づけしを祝して朕ハ朕の師隊が皇帝並  
に祖國の爲めに戦はるる名譽を有はるるを慥に朕  
の誠實なる祈願ハ師隊に伴ひつゝあらず上帝よ

其既協旗と祝福し給へしと曰へり

△タイリスの東京通信者其紙上ニ於テ黄福説の根柢なき所以と道破し日本人ニ東西兩洋間の人種的争闘を以テ厭ふべく取るニ足らざるものと認め居るを告げ更ニ進んじ斯の如き愚説を唱ふるは徒ニ日本の忍耐を亡失せしむるの虞あり者と警告せり

△十五隻の横逸艦隊アリモリスに着せり美國皇帝キーン訪心の答禮なりと

△皇帝ハ第五第六兩軍團を極東ニ向け出發せり  
ハリスの準備を以テモスコロに於テ査閲しつちり

△皇國飛空艦艇ヲルスブルガ及びスモレンスク  
號ハ紅海ニ出り

△解彼得堡ニ於テ發表せしむる達陽方の報  
通ニ依ルハ日本軍ハ諸所の峻隘ニ砲臺を築き  
つちちを以テ其達陽奉天ニ向ヒ進行せん  
とに頗る実らしうらやとす

七月十二日

蓋子敵後評判

○遼東の露軍形勢頗る佳なり。今は既に遼陽より北に退却しつゝ、ちりと信せらる。又クハトキンは自ら蓋平に於て指揮を爲し居ると傳へらる。

獨逸の報

獨逸の軍報曰く獨逸皇帝の電報(自分の名譽大佐たる夜蘭の一隊)に対し其出陣を祝し之が勝利を祈りたり。唯を帝が其關係ある隊に対し箇人としての禮儀を出でたりしのみ。況して日本に對する悪意に出でたりし

夜蘭の大損害

つゝちらむと

斯くて此等の新聞紙は英國のロイヤルドラグーン隊トランスカパールに發せらる。當り露兵の帝の之に祝電を照へたりと云ふ

△聖彼得堡の報より、パリに發表せられたる所、據るに巡洋艦アスコルドは日本艦隊の爲り旅順口に於て水雷を掛けられ大損害を受け乗組員の多数は傷み、失はれりと云ふ

旅順の攻撃情報

△フアワンの號の船上にあり米國新聞通信員の報告する所、據るに曰く昨日陸上に行はれたる大

砲撃の固日本の攻城砲ハ一分固十六澤の平均  
を以て其砲撃を度射せし之に依りて見ると八  
十門の砲使用さし居ると云ふ也

牛莊よりノ報ニ據れば大石橋の方向ニ於て激  
しき砲戦ありしに於てトキレ將軍同地ニ於て防  
戦し居れりとの事なりと信せらる

聖彼得堡ノイグオス々新聞の稱する所ニ據る  
ハ美露親和の思想漸く其地歩を獲来らんとす  
と云ふ是亦露ニ美國の意向を推測せんとする  
ものニしき當地ニ於ては單ニ之を一笑に附し

居りし

七月十三日

ノイエスヲ ナツハリヒランの報をす所ニ據  
ルバ曰く柏林銀行の代表者ハ三週日前聖彼得  
堡ニ於て五分利附五千萬マルク公債引受の契  
約ニ調印せしと云ふ

ロイヤル通信社のペリムスより報する所ニ據  
ルバ曰く美國汽船コンラース號の報告ニ從  
て夜間義勇艦ピータースバーグは甲板八門



の砲を備へ居たり。七月十一日、ジェフターの南方に於て同艦及びクリューホーレン艦二停船を余じ双方とも四時間引き止り日本人を捜査した。その後北方に向て汽走せりとありと

支那海軍艦隊汽船ピーターズバーグは八門の砲と多数の乗組員とを搭乗して紅海北緯十八度の處に於て英國汽船メテラウス及びクリューホーレンに停船を余じ数時引き止り其書類を捜査せり

△遼陽より之の報に據れば日本が作候隊は同地を

距る十二哩の處にあり日本の騎兵一旅隊は奉天の附近に現はると云ふ

七月十四日

△支那海軍艦隊の汽船ピーターズバーグは五隻の潜航艇より條件に依り西番と既に結ばしとの間に

支那海軍艦隊の汽船ピーターズバーグは五隻の潜航艇の組織材料浦塩に到着した。同地の新聞紙に紙を得る能はるるを免刑を休止せりと云ふ

日本公債の騰貴

△ 日本公債の騰貴は、五令利付公債、本日共  
四分三厘騰貴した。

クリエーカニ逝く

△ 前トランスカパール大統領クリエーカニ氏本  
日死去した。

幕僚の必死

△ 幕僚の旅順に於ける日本軍の損害と大袋取に  
吹聴し、世人の旅順要塞は今も陥落を  
と思へるを打消さんと試み居る。

ウイフテの幕僚  
目的

△ 露國前藏相ウイフテ氏の伯林行の目的は三千  
二百万磅の露國公債募集に對する樞逸財界の  
意向を探るに在り。

露國艦隊同遊

△ 露國艦隊同遊は、種々の世論を惹起し、一般  
に本件は伯林條約に加盟せる各國の調査に附  
せらるべきものなりと思惟せらる。

露國大活躍  
吹く

△ 露國大活躍は、露國艦隊同遊は、種々の世論を惹起し、一般  
に本件は伯林條約に加盟せる各國の調査に附  
せらるべきものなりと思惟せらる。

△ 露國参謀本部の公報なりとて、露彼得僅より報  
道せらるる所は、俄にバプシキシーフの参謀部  
に日本側より報道なりとて、日本軍不去了

清國鉄道通電復

十日の夜旅順口陣地を攻撃し殆ど教へ難きま  
で多数の損傷を蒙りて撃退せしむるに依り其  
損害は三萬を以て算せらるる尚ほ之に先ち行  
けし非公報も右同様のこととを言へり此損傷  
は我軍の埋設したる地雷に原因を有するなり  
と云へりといふ

おスト新聞の報通くる所、依れ上海南京間  
：鉄道を敷設する爲り清國政府保証五分利の  
二百五十萬磅の支那帝國鉄道公債九十七半の  
價格を以て去る十三日發行せしむる尚ほ應  
募者は鉄道純益の五分一を受く可しと

クリューケル  
葬儀

前トランズガパール大統領クリューケル氏肺  
炎を以て瑞西に死せり遺族は美國政府に請願  
せしにトランズガパール夫人の墓側：埋  
葬せしむるを以てしなり

果て虚報のみ

旅順口：於て日本軍三萬を屠殺したる風の説  
は寧ろ且夕：追ふると言はるる旅順口陥落  
の報を緩和せんとするの手段なりと聖彼得堡  
に於て認めらるる

美國の陸軍改革案

陸軍大臣フォスター氏の下院：陸軍改革案を

美皇進軍準備

提出したる即ち同案、十四箇大隊の兵負を減  
少し民兵のその改革に對する國情未だ熟せざ  
るを以て之の手を觸れず裁勇兵の其數を十八  
萬に減せしむ。從來より多額の給料を與へん  
とし且つ陸軍を令せし二と一其一を純然たる  
本國の役務に就けしり現役二箇年、豫備役六  
箇年と爲さんことを提議したる

七月十五日

△ マグナル將軍、今日拉薩進軍の準備をなす  
月五日、同地に着たる豫定なり

美獨仲裁條約

△ 美獨仲裁條約、美皇キール訪問の結果なり  
と  
唱へらる

波羅的海艦隊給炭  
手段

△ 商人の一人の手によりて東航波羅的海艦隊の  
石炭積込をなさんと計畫中なり  
其法に先づ私有の石炭船と特約を結ば外洋に  
向つて航海中某々海港にて石炭を買入れしつ  
公海に於て艦隊に出会ひて之を供給せしむべ  
き仕地なり

七月十六日

4ヤンバレーン氏司会者となり、改造後のユニ  
オニスト党委員会第一会を開きたる。前米会の  
委員百八十名歡呼してランスダウン卿と總裁  
にセルおルン卿と副總裁ニ送着し、強んじ満場  
一致を以て財政改革案を承認し、是れ4ヤ  
ンバレーン氏をユニオニスト党の機軸を彙託  
中のレウとなし、をることとを示せしめたり。

此夜、アルバート、ホーブルに於て一萬二千人の  
異常の示威的大集会あり、4ヤンバレーン氏主  
なる演説者となり、ランスダウン卿ハ政府の財  
政改革承認の決議ニ對して挨拶を爲し、此の決

議ハ大いに首相の措置ニ力を添へるものなり  
と宣言せり。

露國及び佛國從軍記者の電報は一致して七月  
十日夜旅順の周圍ニ於て激戦あり、日本軍大  
損害を受け露軍亦千人の死傷者を出したる  
こととあり。

又サハロフ將軍の報告ニよればレン子ンカム  
ヲ將軍はサイマルセの戦闘ニし負傷したる。但  
し戦闘の結果露軍の攻め入りたる日本軍を撃  
退し、山道を占領したると。

△ 聖彼得堡よりノ報として巴里に發表せし所  
ニ據ルハ大石橋の東北に於て目下激戦中なり  
と云ふ

△ 夜間巡洋艦ピーター・スモレツク  
の二艇明にビブーナルに向テ其途上ニありし  
の如くペリムを通過して英國汽船テラゴマ  
ンに停船を命じたりカリーガ子ルス通航の際  
ハ石炭を以て其砲を掩蔽し居たり

七月十七日

ペリムよりの報に據ルハ汽船ドラゴマン  
フォームよりの清國に至りし途上紅海に於て夜間  
巡洋艦に依り停船を命じ居たり

△ 夜間(勇)巡洋艦セントピーター・スモレツクは日  
本に向テ航海の途に於て英國郵船マラツカ號  
を捕拿せり  
又同巡洋艦スモレツクは獨逸郵船プリンツ  
ハインリヒ號内より日本宛郵便物小包等五十  
五袋を没収せり

△ モーニングスターの軍事通信員が  
氏西比利亞鉄道を經て奉天より倫敦に歸るに  
り其箇人の觀察なりと稱する所は據るに  
來月初旬ウロバトキン將軍より二箇軍團の  
兵と砲二原門とを補給さるべく第三十一師團  
は六月中旬より奉天に來着し初めたりと云へ

七月十八日

長國義勇巡洋艦二隻、水雷艇一隻紅海に於て  
巡航中なるに其目的日本に向はんとせし或る

一定の汽船を要せんとせしものなりと信せ  
らる

新聞紙ハ右巡洋艦がガ子ルス通航の際に  
ハ商船旗を掲げ今ハ海軍旗を掲げて長國艦船  
ニ停船を命じ居るに對し其二種の性質を有  
せしと鳴ら居る

長國義勇艦ポータースバーグは紅海に於て横  
濱に向ひ其途上ニあるにボーオリ会社汽船マラ  
ワカ號を捕拿し今之を蘇士に向ひ引立て居る

又義勇艦スモレンスリは船員を以て擄逸郵便  
船プリンツハインリッヒに乗り入り日本宛

露國地方官程

儀 前南阿大領領幕

露國政府と英艦

の書信行囊三十一箇、小包行囊二十四箇と計  
渡さしめたり

之、對し獨逸政府、其説明と待受け居たり

政府機密紙、既、之を以事視し居たり

露國エリサベスポール（トランスコーカサス  
地方）副總督暗殺すべかり

△ 獨逸人は同團汽船プリンプハインリヒ號が  
美國政府にプロレトリアにクリエーゲルの幕儀  
を行ふこと、同意を與へたり

傳道すも左子と傳り、英國新聞紙、此海賊同様  
に認らうと、露國義勇艦スモレンスク號の行  
動に對し、新然たる處置を爲る可きを、政府に勸  
告を爲る、國際間の紛争を生ぜんことを恐る居  
たり

△ 聖彼得堡陸軍大本營幕僚は宣言し、曰く、クハ  
バトキン將軍、兵力不十分なるを爲る根據地  
に退却せべく、軍隊集結の完成をすも、戦闘を  
避けんとす

△ 紐育サン新聞ハ日英米三國同盟の出来得べき

露軍の退却計畫

日英米同盟説



しのなるしとこと立言したる

夜船あり汽船と  
抑首

英國汽船ワイハラ號アランに到着し昨日露國  
義勇艦ピーターズバーグ號が居り、四時同停  
船を奪せしん英國汽船マラワカ號が日本行の  
兵器彈藥を搭載し居たを以て去る十四日捕  
獲せしんたる旨告けられたる

マラワカ附近の大船

新嘉坡よりメル新聞に達し左の電報に依り  
心去る十四日マラワカ海峡附近に於て西方に  
航去る大装甲巡洋艦一隻載炭船二隻を見たり  
是れ日本軍艦が紅海に於る露國義勇艦を捕獲

せんとして其途中にありしものなりと想像せら  
るる曰へり

七月十九日

義勇艦協極某隊  
報

英國汽船ベルリヤ號の量に楫船ハインリヒ號  
より日本行郵便物を没収し去りたる露國補助  
巡洋艦スモレンスク號の居り紅海に於て一時  
同餘威力を以て抑留せしんたる未長崎行の行  
囊二個を没収せしんたる楫逸政府のプリンツ  
ハインリヒ號に關し露都に抗議を送り又ハ  
ー、オー、倉社の辯明に據るハ露國に紅海に於て

夜艇：捕拿せしめたるマラワカ號は日本に  
送るべき何等の兵器彈藥を搭載せむ唯香港行  
の政府用普通船を積載したるのみなりとす

仙國と羅馬法王廷との關係は益々危殆に瀕せ  
り仙國內閣は曩に法王廷が仙國の宗教改革に  
對する法王廷の抗議を加はるを拒絶せしう少  
ルルが際正に向つて事情辯明の爲め韓國を  
心しと余じたる書函の撤回を要求し是之を  
撤回せしむは直に兩廷の年裂を見るべしと申  
すなり

七月二十日

彼得堡：於てハマラワカ號ハリバト審檢所  
來るべしと傳へし又亞丁に在るテイリメ  
ー通信員ハ英國汽船ソードクック、カルマ  
テイヤの二隻が紅海にて三時間夜艇を折返せ  
しと云ふ趣本社に電報せり

夜艇嚴密艦隊の捜索に關してロリー中將ハ  
議會に於て一の質問を提出せるに外務次官ハ  
ししし伯爵は之を答へて本件は目下緊要の大

問題なるを以て政府の熱心は注目せし然るに  
今日迄は接点せる報告は尙未だ不完全なるを  
免れんと

△ エリサベスホール副總督は人通少き街路に  
警勢せしむ六個の隊を受けたり下手人ハ  
メニア人にて逃亡せしむと信せらるる原因  
ハメニアに於ける寺院の財政を没収した  
る夜國の計畧に反抗するに由りしを以て  
といふ

△ 紅海に於て獨逸汽船搭載郵便物より夜國の居の

没収せしむるに日本長崎行の二臺を以て他  
に孟買行の汽船に託送せしむるに

△ 英國義勇艦隊が紅海に於て英艦を捕拿せし法  
果形勢容易ならずして、或る英國の一面夜  
國に抗議するに共一面其海軍を以て豫め警  
戒を怠らざらん

一般通論の所見ハ夜國が條約（メニアルス  
海峡軍艦通航禁止の條約）を破りて日本に加  
害せしむるを許さべからざるを以て存し而し  
て夜國の目的の態と國際間の紛議を惹起して  
挑発に於ける敗辱の不面目を糊塗せんとする

存くと認めらる

被捕美艦士官

被捕美艦マラワカ號ハ、露國軍艦旗を懸し露國  
海軍將校士卒の指揮より露士に到着たり

義勇艦隊凶徒

紅海に於し露艦を捕拿したるより、露  
際同の紛議惹起せしむとの風説人心を動し  
コンソール公債を下落せしむるに至り、然れど  
此風説ハ無根なり

但し露國政府ハ既、義勇艦隊の資格確定を露  
國に促さしむるに、執事、巴里條約調印の列國と交  
渉を開始し、たゞといふ

上海登記所設置

官報にて上海を登記所所在港となす旨の樞密  
院令公布されたり

清國鐵道公債

清國鐵道公債應募定額に達せし但、ペンダラ  
イラール其内の我分を引受けたり

七月二十一日

英國の專論

△英國の諸新聞ハ、露國義勇艦隊の性質を明に  
し、激しく主張せし、就中スタンカード新聞  
ハ、露國政府が義勇艦隊の特權（即ち

夕一が子ルス通過の特権を許すことなく且  
つ土身其に對してハ日美條約の趣旨に注意せ  
しうぶじべうらむと絶叫せし

△ 又西丁に在るデーリーメーカーの通信員ハ報  
て曰く義勇艇ペテレスブルグ號の船長ハ東洋  
ニ向ふ美國汽艇ニして積載貨物も明ニ證書ニ  
記載せしむるものハ捕獲せしむると西丁ニ居留民  
ニ通告せしむ

美國ハ美船マラウツカ號の捕拿に因り嚴重に  
國ニ抗議し其即答を望み且つ本國駐る為ニ嚴

重大方の形勢を惹起せしめ  
示したる

我國の外務省ハ美船マラウツカ號ハ憲法  
セバストポールまで曳来うざる可らむと言

美國の新聞紙ハ我國のマラウツカ號に對する取  
扱振に對し憤慨し政府に向つて直ニ之を處分  
を要求し且つ美國ハ日本の同盟國として我國  
に對し加子ルスの中立を破壊し以て日本軍に  
害を及ぼす力をなすを座視せし可らむと宣言せ

江海に於て捕拿せらるる美国ヒー、オー、会  
社汽船マラッカ號ハポートサイドに於て乗客  
一同を東再行マルモラ號ニ移乗せしりて後埃  
及政府の照会を待てり乗組船員ハ、打て上陸  
し船長ハ事情を倫敦ニ報告せん爲り伊國アリ  
ンゲンに向け出度せし。ポートサイドの官憲は  
マラッカ號を仏國シエルブールに引き行らん  
爲り之ニ薪水の給與を得たりと云う請求ヲ拒絶  
せし。

昨日聖彼得堡駐劄美國大使はマラッカ號の即  
時時釋放を要求せし。諸辭森嚴なる通牒を夜國  
政府ニ提出せし。二十四時間内ニ之に回答を求  
めたるものなりと信せらる。  
然るに夜國はマラッカ號ハ夜國船員を以て  
本埠ポートサイドを出度せし。夜國の一塔に向  
ひたるもの、如し  
是國政府が本曜日を以て議会ニ出さるる事あり  
し。ターカ子んヌ同鉄ヲ説明。来る月曜日ニ於  
て行ふことニ延期せらる。  
總理大臣ハ、フオーア氏ハ下院の質問ニ答へ  
し事態頗る重大なりと云へり。

日清戦争の経過

△ 露國公債の急下落、日本四分利附公債の半  
磅騰貴せり

△ 聖彼得堡より報に據んば遼陽を去るごとく十  
四哩の地を大戦あり、露軍大敗したるとの風説  
ありと云ふ

新聞紙、皆一様：露國政府の抗議、暫成り政  
府、其背後に全國民を有せしむるなりと宣せ  
せり

露國の抗議と露海

マラツカ號事件

美國艦隊に於てマラツカ號を捕獲せしるる者  
くは其他の制を以て出た事起るにせら  
ざれば右のマラツカ號事件、穩かに露着るべ  
いと信ぜらる

總理大臣ハルフォード氏、下院に於て議負バ  
ウルス氏の質問に答辯して此の最も重大  
なる問題に對し疑もなく説明をなす若しど  
し未熟なる説明を爲すは好まらざると言ふ

マラツカ號に到着地を宣せせば一とポートサ  
イトを以帆したる

七月二十二日

マラッカ號の薪水

前電埃及政府の照会を待りしとありはマラッカ號：薪水を給與せよとや否や：同一同政府へ照会したる回答を待合せ居るの意あり

マラッカ號内題

マラッカ號事件：聞きの處國の英國：對する回答ハ遷延し居りし

マラッカ號の所在ハ不明なり  
政府…本日午後下院：於て其後の情報：接せむと述べ居り

外務大臣ランズダウの卿…只今皇帝：謁見し

を

佛國の外交は長引ける危殆より生れざる要結果と勢少なりしゆんと努めつつあり

英國ハ露國義勇艦の矛盾せる性質：付て断然たる態度を採るなりん蓋し義勇艦を以て若し軍艦なりとせば是れ外にケチルズ條約の大破毀なり若し商艦なりとせば中立國の船舶を捜索し且つ捕拿せしむの權利あることなり故に其行動ハ海賊的なり其何れにても英國政府ハ之を抗拒をばし英國地中海艦隊…既にアレキサンドリア港に集中したり



在北京復國公使館書記官ラウングラスキ  
印度に於て銃を以て自殺したり

昨夜下院の散会したるハ夜半なりき總理大臣  
ハルフォード氏ハ政府ハマラツカ瓶ヲ釈放セ  
らるなりとの確報に接せむと言へり  
然れども若干の新聞紙ハ釈放の事既に決定し  
たりとの事と以て事實なりと認め居るが尤も  
極めて重大なる問題ハ義勇艇の性質にありと  
ハ彼等ハ指示せし所あり  
テリリー  
テレカラフの報通に曰く復國義勇  
艇ニして美國航業に對する干渉の中止を拒絶

たると於てハ海賊ととして取扱はる可しと復國  
政府ハ通告せしむるなりと

モスコイ新聞紙の報通に依れば黒木大将の部  
隊ハ復軍の左翼を馳攘し今や奉天に向つて進  
軍しつゝありと云ふ

△汽艇マラツカ瓶ハ彈藥鉄製品等と載せ門司に  
行くものなりとアントワープより報告せしむ  
つかりより捕獲せしむるものなりと傳へ  
らる

△ 美国の露国：対する抗議はマラツカ號：彈藥を載せ居りたるを承認せし然るも是れは政府の財産として美国の支那艦隊に送るべきなりと断言し彈藥を入れたる箱はロケットと稱し（矢羽の記號）の印を附しあることを辯明せし美国人民の憤激甚しきなり政府は最も強硬なる抗議を露国に致しことを餘儀なうらりしあり日頃政府に反対せる政党内閣等も本件に關し是れ飽くまで政府を助けし一致の運動とならべし意向を示しなりと信せらる

△ 露國政府…マラツカ號：固たる英国の要求を

容れたり

美国の紅海：於ける露國の干渉（高船：対する）を制止せしむるに注意し重なる海賊的行為をうらしむるなり其艦隊を同海上に派遣せしむる彼得堡に於ける露國の現行條約（外に外子ハスに關する）に準據し居ることを明ししなり然るも美国の民ハ本件を一層嚴明に處断するの希望を一にせし

△ 前電を發したる後マラツカ號問題に關する露國の美国に對する回答未なりマラツカ號ハ英国領事主会に正式に領物を検査したる上釈放

せうの可く右検査の場所、多分クリート島の  
スーパ湾なりん尚月夜國ハ將來ニ於テ此種の  
出来事を防止せんことを約せり  
損害賠償の要求ハ例の如く提出せしむるなり  
ルイジアナ海峡問題並ニ巡洋艦ピーターズ  
バークの性質ニ関する問題ハ穩ニ談判せら  
れつゝあり

在聖彼得堡ロイヤル通信員の電報ニ依ルバマ  
ラウカ航事件ニ對テハ露國の回答ハ將來同様  
の出来事起らざるべきを約せりマラウカ航ハ  
地中海の某港ニ對テ美國領事立会の上正式ニ

貨物と検査さるべく捕獲審檢所ニ廻航せら  
れおのべいと云ふ而して右の某港ハ多分ス  
ーパ湾なりん

遷延ニ對テハ損害要求ハ相當の期間ニ提出せ  
らる可し

美國巡洋艦サイラス號(五千六百噸)はア  
レキサンドリア港よりポートサイドに赴き直  
にスエズ運河ニ入り尚月同巡洋艦フエーリア  
ス號(五千七百五十噸)駆逐艦エックス號(一  
千五百四十噸)同マラード號(二千七十五噸)  
も亦たポートサイドに向ひアレキサンドリア  
港を出度しなり思ふニ紅海を巡邏する不慮也

出航したるも力ならずん  
外務大臣ランスカウン卿ハ本日午後皇帝ニ謁  
見しなり

マクドナルド將軍はカコラ嶮隘を了る西藏人の  
陣地を占領しなり 戦闘ハ氷原中ニ行はれ左了  
なり

七月二十三日

左聖彼得堡ロイテル通信員ノ報道ニ依ルハ英  
國の艦船は今後我勇艦ニ依り干渉せしめざらん

可しといふ夜國の證言ハ夜國外務大臣ラムス  
ドルフ伯ハ仙國大使と会見したる後去る木曜  
日夜帝と商議を序したる其夜帝の勢力ハ大部  
分基因を了るものなりといふなり

七月二十四日

△ 仙國外務卿ラルカワセ氏ハマラツカ號事件ニ  
関し夜國の相談を受け夜國ニ通告して仙國の  
見所ハ英國と同ト云へり

△ 夜國ハ即時巡洋艦ピーターハーグ、スモレ

ンスクを召還をべき旨約言せし  
然るに其後ロースターズハーグはハンブルグ  
アメリカ會社汽船スカンヤアを紅海に於て捕  
獲し同船の水夫を搭載したる後其國旗を掲げ  
たり  
同船ハポートサイドに着し其國の訓令を受け  
け居りし  
其國ハ宣言して曰く其巡洋艦ハ交通を困難  
ならしむるを以て之の行動を中止せしむること  
能はざりしなりと

獨逸の感情ハ甚だしく攪起せん其國ハ警告を

るに速に其海賊行動を廢せしむるを以て  
獨逸の同情大に減縮せしむるに至るべき事を以  
てし居りし

獨逸の海賊同船ハ武装を行  
ふの權利其國に存在しや其國の同意ハ未だ解  
決せん未だしむる所なり

總理大臣ハルフォア氏明日(二十五日)議  
會に於て之を説明を下す所なり

七月二十五日

獨逸のハンブルグ アメリカ会社汽船スカン  
パア號義國乗組員の下に、蘇士に着せり同船ハ  
七月二十三日紅海に於て義勇巡洋艦の俘虜に  
捕獲され左の如くなる  
之に對する獨逸の抗議に答へ義國ハスカンパ  
ア號親放の命令既に廢せしむることを聲明  
せり

長時間討議の後、彼彼得僅り同意ハ義勇艦の位  
置を確定し今後船の捕獲を行ふこと能はざ  
るべしとなりと解説せり之を爲り其臨檢捕獲の  
権利ハ凡て撤回さるべし

スモレンスク・ロイターズバーグの二艦は目  
下ジエフター附近に巡航中なり  
蘇西在勤義國領事は紅海に於て其義勇艦に割  
令を送達するの目的を以て埃及政府の汽船を  
借入ルんとし之の特許につき(議)一層水々  
紅海に於る義勇艦ハ結局ホーレンクワク艦隊に  
投合する事となり其任務ハ普通軍艦之を行ふ  
こととなりと聖彼得堡に於てハ期待一居  
り  
マラッカ號ハアルジール在勤の義國領事は引  
渡さるることとなり

サカロフ 将軍の報を了所、據小川曰く日本  
軍の前衛隊の後方、強大なる縦隊及び砲三十  
門を率ゐし遼陽の東太子河、沿川行進し居る  
りと

土耳其政府は英國の抗議、基き今後一切英國  
の義勇艦に勿し勿しとの通航を許さざらざる旨  
英國大使に通告せし

△米國、浦塩艦隊の行動を以て目下千万磅に上  
れり日本との太平洋通航を脅かすものと爲せり

華盛頓政府、本件に就き強硬政果を執るべき  
用意あり

△獨逸郵船スカンゲア號は昨夜遂に釈放された

土耳其、英國の抗議に答へて英國義勇艦隊汽船  
の如しガ子ル通航を禁止せしむるに同意せり  
英國義勇艦スモレンスクはマニラに向け其航  
途に於て英國汽船アルドガア號を捕獲せり  
英國外務大臣ラクスドルフ伯は説明し曰く  
捕獲は臨検停止の命令に當り當該義勇艦に達せ  
ざるなりと

美国戦闘艦アルバマール巡洋艦フエーリアス  
アストリア、ガイナス及び駆逐艦二隻江海  
に追航せし

聖彼得堡より報に云ふに曰く元獨逸ロイド  
會社汽船をリカイルウイヘルムフエ  
ルストビスマルクは巡洋艦に改造すドク  
及びウラハ號と命名す昨日リボリと出度せ  
り他の購買艦七隻亦之に次ぐべし是れ之れ獨  
逸より購入したる汽船に都合七隻となり其代  
價は千四百萬ルーブルなり右のドン及びウラ  
ルは其航海中に文戦國の權利を執行する等な  
りと

美国總理大臣ハルフォード氏に議會に於ける  
其説明に於てハルフォード氏は通航の問題につき  
多く言ふ所なく尚ほ甚だしく争論の連続を  
心す憂慮あり但し好都合に密着を心す條定な  
きにやうにと云へり

七月二十六日

美国總理大臣ハルフォード氏に議會に説明し  
て曰く近日に至り發生したる美国船舶捕獲の  
問題ハ之を輕視するに能はず本問題ハハ  
ルフォード氏の通航と自ら別問題にハルフォード



マラツカ號の不明

ルノ問題ハ亦政府ニ少ナラシムル愛護ニ無  
ヘ良好ナル規定ヲ得ルニ至ルベキト候賜テ  
一政府ハ船舶ノ如ク商貨物ハ運河ヲ通航スル  
ノ自由權利ヲ有スルコトアリト思テ英國ノ  
商船ヲ捕獲査檢所ノ裁決ヲ經ル其積貨ニ關  
シ土耳其政府ニ之ヲ積換ノ許可ヲ求メテ  
ラウガ理由アリト意見スル能ハシト

△ 英國ハ最近三日間クロバトキン將軍より何等  
ノ情報ニ接セズ

△ マラツカ號ハ今尚何釈放セラズニ至ラズ

其後マラツカ號

向ふ所ハ多合パールジール港ナリ

△ 夜艦ノナイトコンマンダー號擊沈ハ華盛頓  
政府ノ憤激ヲ惹起シ且ツ英國政府ニ對シ多分  
強硬ナル通牒ヲ致ス可ト

△ 英國巡洋艦若干隻日カ子ル海峡ヲ監視  
シ居ル

浦島船の大難難

英艦の海峡監視

夜艦の暴行と米國

最新報ハ浦島艦隊ノ行動ニ對シ怒號シ檢査  
ヲ行フコトナクシテ中立國ノ船舶ヲ擊沈スル  
ハ容赦モ可ラズ先例ニシテ此事殆ど戦争

の行爲に等しと直言す

モリーニングがホストはバルフォー氏の説明を以て憤激せる國民を満足せしむるに足らざるものなりとして劇しく之を批難しスタンダードは形勢異常に重大なりと論ぜり

漢堡匠米利加会社汽船スカンガア號ハ再び運河に入り再び定航に就きたり

△ 海軍の船舶捕獲に對し英米兩國人心の激昂甚しく西國連帯抗議を申上むべき模様なり

主要なる倫敦の諸新聞は孰れも政府に向つて断乎たる處置を歩むんとすを督促し此の答をべらうとする海軍に對して内閣諸大臣の優柔不断なるハ何故と切論せりスタンダード新聞の如きハ地中海艦隊及び支那艦隊を以て派遣して英國商船被害を誼と絶たしむべしと直極言したり

七月二十七日

△ マラッカ號ハアムステルダム港に到着したる其處國々旗ハ六時を以て撤去せしむる英國々旗掲揚

せらる可く元同船ニ乗組み居たり乗組員はマ  
 ルヒートに到着したり是よりアールモールに赴  
 く可し船ハ日本ニ向ふ再び定航を為さるべし  
 △ ピーオー会社汽船アールモア號も亦四日間折  
 留せしむたり其後釋放せしむ再び定航ニ就  
 きたり

△ 總理大臣ハルソア氏ハ本日下院ニ於て述  
 べし曰く余ハ英國ガ疑しなく悲しむ可し出  
 来事たる英國公法ヲ破毀を爲したるを恐るるを

△ タイムス、アトリビュテラクラフ、モーニング  
 ポスト、スタンダードは凡て競りて現政府  
 の緩慢、怯懦を批難せり社説を掲出し英國海  
 軍の用ハ何じと詰問しつゝあり

△ 聖彼得堡より來報ニ依りハ英國義勇船ピ  
 ターヌバーク號の船長ハ昇進したりとあり

横濱ニ向ふたるピーオー汽船会社汽船ア  
 ルモア號ハ英國義勇船スモレンスク號より移  
 乗せる英國捕獲船乗組員ニ指揮せしむる工  
 事に歸り来たり

浦島船隊是船と捕  
獲す

美国とケイコ子  
可致

日本及び香港：向ハ米國華盛頓州ロンドン  
ト サウンド港を出帆したる英國汽船カール  
ス號は浦島船隊の打ち：捕獲せしむる

總理大臣ハルフォード氏の演説にて曰く美國  
政府ハ我國水雷艇の商船(旗)を掲げし外ケ子  
ル海峡を通過したる件：同、千九百三年一  
月十日土耳其政府の注意を促したる可其後義  
勇艇ピタースバーグ及びスモレンスク號の  
通航したる事と更ニ條約を破毀したることを  
同前記右の通航：同、露土間：秘密條約あり

こととは之と知らむと

樞密と義勇艇同  
對

樞密新聞ハ我國との問題ハ樞密のみ：執し言  
は、落着いたると宣言ハ我國の敏捷なる友誼  
的行動と稱賛す  
カシ伯林の報道：依ルバ我國ハ義勇艇の  
資格問題に不同：附せんとして既：暗黙の間：  
樞密の支持を得たりとめしむるなり

七月二十八日

△ 義國內務大臣アシューエ氏ハ本日暗彼得堡の

義國內務大臣の  
暗殺

鉄道停車場に於て爆弾炸裂に依りて暗殺されたり  
右の爆弾炸裂に因りて馬車も破壊し御者を殺し  
且つ若干の傍觀者を斃せし暗殺者の直に逮捕  
され先行附近の家屋等亦甚しく破壊されたり  
△華聖頓政府は米國に如何なる理由によりて米  
國領物を搭載し米國港灣に向け其途上にある  
中立國船舶を捕獲したるものなるや之は其説  
明を求めたり

京都よりハ電報に依りて米國內務大臣ブレ  
ウエは暗殺されたり其馬車に對して爆弾炸裂を

投下付けたるものあり因る

英國汽船マラツカ號はジブロールターより其  
元乗組員を搭載してアルジールに着せり  
ピールオー会社汽船フォルモサ號ハ釈放され  
り  
英國乗組員に依りて獲西に航還し來りたる獨  
逸郵便ハルサヤ號亦釈放され  
其後の電報に依りてマラツカ號ハ英國乗組員  
アルジールに上陸し英國領事同號の所有權を  
取れり同船ハ本週内ニ再び其豫定の航途ニ就  
くべしと云ふ

仙國內閣議長コムベー氏来る金曜日と期して臨時閣議を召集せり之に爲り大統領ルーロベー氏は其地方出發を延期したる

七月二十九日

デーリリーテレグラフ新聞ハ政府ハ國民ハ戦争を欲せむといへども美國船が農園軍艦に破壊せらるゝと忍ぶ能はれ又之を欲せむと絶叫せり  
海軍行部ハ準備を命ぜらるゝとの風説ハ根據

フオン ガーハ 將軍多分故ブレークエ氏の後任ニ奉けらるべし 將軍の子息は今捕虜として松山ニあり

浦塩斯德艦隊ヲ捕獲したるアラビア號ハ浦塩斯德ニ看せり

△ 聖彼得堡よりハの報ニ據ルバ曰ク吾人ハ日本軍の動力非常なるに驚歎せり大石橋の戦の如き日本の轉回運動発覺するに至りたる迄確ニ之

を以て自軍の勝利を信じて居たりなりと

美露國の衝突

美露國間の衝突は露國の紅海に於て巡洋艦を召還せしむるに依りて聊可緩和を見る、至少く但し其大問題は尚ほ解決に至らざるものなり

露國總理大臣ハルツォーフ氏はタイトコンマングーに對する暴行等尚ほ憂慮せざるべからざるものなりと云へり

七月三十日

露國大臣時叙後報

露國內務大臣ポレーウエ氏、投せられたる爆弾ハ御者を殺し馬及び車を破壊しポレーウエ氏の隻腕及び面足は其軀幹より割れるなり

美露國衝突の終

美露國外務大臣ランズダウン卿上院演説して曰く政府はタイトコンマングー號の撃沈に同じ嚴重なる抗議を提出したる此暴行は頗る重大なる國際法の違反なりと依りて政府ハ英國乘組員の釋放を要求せしむる共ニ將來ニ同様の手段を防止する爲め命令を發せんことを請ふなり露國ハ敬意を以て此通牒に對せし紅海事件の先例に徴せしむる今回の此通牒亦目的的

リの結果を得るに至るべきを信じて堪へり  
他は尚ほ重大なる問題の注意を要すべしとの  
亦存面せざるにあらん即ち裁量艦隊の性質異  
海の航海出入に因る所の等是れなり今且度  
り紅海に於て捕獲せられたる船舶の抑留を惹  
起するが如きことなきを以て故障あり之を研  
究せざるを得べしと  
總理大臣バルフォア氏亦下院に於て同様の  
説明を爲せし  
其後の電報に依れば駐露英國大使ハートマン  
氏十イトコムマン外に露の撃沈に因り其抗  
議を提出したると云ふ

露仙通商條約  
調印

仙國と羅馬法王  
廳

英國大臣遺囑と  
美米

ロンドンに於て昨日伯林に於  
て露獨同新通商條約に調印せし  
長期間開議の後巴里政府の通牒羅馬法王廷に  
致したる右は仙國と法王廷との間僅る全地  
邊断せざるに至るにむべきものなりと云ふ  
英國皇帝は露國皇帝に電報して其阜誠なる大  
臣を失はれたるに同情を表し米國の務卿ハク氏  
亦哀悼の意を電送せし



